

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。(知識及び技能) ○生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や判断力を伸ばす。(思考力、判断力、表現力等) ○言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
現代の国語	2	全日制・普通科・1学年	改訂版 高等学校 現代の国語(数研出版)

科目の目標	○実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。(知識及び技能) ○論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等) ○言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手として自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)
-------	---

時期 月 週	単元名	領域	指導 時数	単元で育成する資質・能力 ＜単元の評価規準＞	評価方法	主な学習活動	主な言語活動	教材及び教科 等横断的な視 点等
4月	評論の読み方	読む	2	① 知識・技能 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。〔(1)オ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。〔C(1)ア〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 文章の論理展開を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って具体的に考えようとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・意味段落のまとまりを意識して読み、各段落の内容、および文章全体の構成をとらえる。 ・文章中の抽象的な表現について説明する。 ・「バーチャルなつながりが内面世界に奥深く食い込む」経験について話し合う。	文章内容に関連した具体例を探し、その内容について話し合う。	「風が通るとき」(田中真知) 英語コミュニケーションⅠ 「話すこと(やり取り)」との関連
	対比の構造	書く	3	① 知識・技能 個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。〔(2)イ〕 ② 思考・判断・表現 「書くこと」において、自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。〔B(1)ウ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・比較を通じて「東西」の文化の差異への理解を深め、「水」の他に文化の差異を感じることに、他者に伝えようとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・日本と西洋の「水」に対するとらえ方の違いを整理する。 ・音の表現に着目し、表記の違いによる効果を考える。	「水」の他に、日本と西洋とで感じ方や考え方の違いを感じさせるものをあげ、その違いをまとめる。	「水の東西」(山崎正和) 歴史総合 「歴史の扉」との関連
5月	一般論と主張	書く	4	① 知識・技能 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。〔(1)オ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。〔C(1)ア〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 自分の考えが適切に伝わるように、主張や論拠の説明を積極的に補足しながら意見交換を行い、学習課題に沿って自分の考えをさらに深める。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・意味段落のまとまりを意識して読み、各段落の内容、および文章全体の構成をとらえる。 ・世界中に「わらしべ長者」に似た話があるのは、経済学的な普遍性があるからだという筆者の主張を踏まえて自分の考えをまとめ、意見交換をする。	筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめ、意見交換をする。	「『わらしべ長者』の経済学」(梶井厚志) 政治・経済 「現代日本における政治・経済の諸課題」との関連
	書き言葉の記述	書く	3	① 知識・技能 文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。〔(1)オ〕 ② 思考・判断・表現 「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 文章構造を理解し、分かりやすく要約しようとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・文章の構造、結論の示し方について理解する。 ・要約の方法を学び、形式段落を一文に要約する。	「ポスト・ブライバシー」を100字で要約する。	「文章トレーニング1(文章構造を理解する)」 「文章トレーニング2(要約する)」 総合的な探求の時間との関連
6月	論理とレトリック	話す・聞く	4	① 知識・技能 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。〔(1)ア〕 ② 思考・判断・表現 「話すこと・聞くこと」において、目的に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を整理して、伝え合う内容を検討している。〔A(1)ア〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 本文の内容を自分のことに置き換えて考えようとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・本文を四つの段落に分け、小見出しをつける。 ・レトリック感覚が特に必要とされている理由を読み取る。 ・日本語の「レトリック」にはどのようなものがあるか。それぞれどのような効果があるか調べる。	自分の認識が一面的になっていることはないか話し合う。	「コインは円形か」(佐藤信夫) 英語コミュニケーション 「話すこと(発表)」との関連
	実用の文章	話す・聞く	3	① 知識・技能 個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。〔(2)イ〕 ② 思考・判断・表現 「話すこと・聞くこと」において、目的に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を整理して、伝え合う内容を検討している。〔A(1)ア〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 文章と資料が示す内容をあわせて理解し、具体的事例を用いて積極的に考えを深め、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・文章と図の内容を読み取る。 ・「手話」が「言語メッセージ」の手段であるのはなぜか考える。	文章と図の内容を踏まえて、自分が何気なく行った動作が非言語メッセージとして受け取られた経験はないか、それはどのようなものだったか話し合う。	総合的な探求の時間との関連
				① 知識・技能 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。〔(1)ア〕	授業時の観察 ワークシート 振り返りシート 等	・「もの」と「ことば」の関係について、本文で言う一般的な考え方をまとめる。	日本語と英語の単語を比較し、認識される対象にどのような違いがあるかを調べ	「ものことば」(鈴木孝夫)

7月	具体と抽象	読む	4	② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。[C(1)ア] ③ 主体的に学習に取り組む態度 筆者の意見を踏まえた具体的事例を粘り強く分析し、学習課題に沿って自分の考えを深めようとしている。	ト等	・本文冒頭の内容は、「唯名論」と「実念論」のどちらに近いものか考える。	る。	論理・表現Ⅰ「英語の特徴やきまりに関する事項」との関連
	話し言葉の技術	話す・聞く	2	① 知識・技能 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さなどに配慮した表現について理解し、使っている。[(1)イ] ② 思考・判断・表現 「話すこと・聞くこと」において、論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価している。[A(1)エ] ③ 主体的に学習に取り組む態度 音読を正確に聞き取り、理解しようとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 相互評価表 等	・スキミングとスキヤミングを意識し、相手の話を正確に聞き取る。	教科書の文章を音読し、復唱や聴写をする。	「聞くトレーニング（情報の聞き取り方）」 英語コミュニケーションⅠ「聞くこと」との関連
9月	実用の文章	書く	3	① 知識・技能 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さなどに配慮した表現について理解し、使っている。[(1)イ] ② 思考・判断・表現 「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。[B(1)イ] ③ 主体的に学習に取り組む態度 実用的な文章の身近な事例を積極的に調べ、学習課題に沿って適切な形式の文章を用いてまとめようとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 相互評価表 パンフレット 等	・条例とパンフレットの目的を確認する。 ・条例路パンフレットの文体、表現の違いを話し合う。 ・条例の文章を書き換える。	条例の前文を周知するための「パンフレット」を作成する。	「目的に合わせて表現を工夫する（条例とパンフレット）」 公共「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」との関連
	比較する	読む	4	① 知識・技能 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句や語彙の構造や特色、用法などを理解し、文章の中で使うことを通して語彙を豊かにしている。[(1)エ] ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、目的に応じて、文章に含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈するとともに、自分の考えを深めている。[C(1)イ] ③ 主体的に学習に取り組む態度 筆者の意見や参考資料をもとに実社会の問題について積極的に考察し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・「政治的思考にとって大切なこと」とはどのようなことが説明する。 ・論の展開に注意し、筆者の主張を理解する。	チャーターの言葉を踏まえて、「独裁政権」と比較しながら、「民主政治」の特徴を説明する。	「政治的思考」（杉田敦） 政治・経済「現代日本における政治・経済の諸課題」との関連
10月	書き言葉の技術	書く	3	① 知識・技能 主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。[(2)ア] ② 思考・判断・表現 「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。[B(1)イ] ③ 主体的に学習に取り組む態度 読み手の理解が得られるよう、工夫しながら文章を書こうとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 相互評価表 等	・論証の方法と検証の観点を学ぶ。 ・主張と根拠のつながりについて考える。	根拠を明確にし、新聞の社説に対する意見文を200字程度で書く。	「文章トレーニング4（論証する）」 「文章トレーニング5（意見文を書く）」 総合的な探求の時間との関連
	視野を広げる	書く	5	① 知識・技能 主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。[(2)ア] ② 思考・判断・表現 「書くこと」において、意図に応じて書かれているかを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の長や課題を捉え直したりしている。[B(1)エ] ③ 主体的に学習に取り組む態度 筆者の意見を参考にしながら、積極的に根拠や具体例を用いて論理を構成し、学習課題に沿って自分の意見をまとめようとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・今日医学の発達により死の問題が複雑になっているとはどういうことか、説明する。 ・「命が尊いゆえん」を二つ整理する。	「命が自分のものであるという考え」への賛否について、具体例を示した上で意見文を書く。	「命は誰のものなのか」（柳澤桂子） 化学と人間生活「科学技術の発展」との関連
11月	視野を広げる	読む	4	① 知識・技能 主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。[(2)ア] ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。[C(1)ア] ③ 主体的に学習に取り組む態度 論理展開をpushしながら筆者の述べている内容を粘り強く読み解き、学習課題に沿って適切にまとめようとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・「理解は常に時間的な出来事」であるとはどういうことか説明する。 ・接頭語の働きに注意し、否定の接頭語を使った熟語を挙げる。	筆者の考えを、根拠も含めて100字以内でまとめる。	「他者を理解すること」（鷺田清一） 論理・表現Ⅰ「英語の特徴やきまりに関する事項」との関連
	話し言葉の技術	話す・聞く	3	① 知識・技能 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さなどに配慮した表現について理解し、使っている。[(1)イ] ② 思考・判断・表現 「話すこと・聞くこと」において、自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。[A(1)イ] ③ 主体的に学習に取り組む態度 相手の反応を見ながら、聞き手に分かりやすく伝えることを意識して、話そうとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 相互評価表 等	・相手を説得できる声、視線、構成考えながら話す。	聞き手にわかりやすく伝えることを意識して、スピーチを行う。	「話すトレーニング（説得力のある話し方）」 論理・表現Ⅰ「話すこと（発表）」との関連
				① 知識・技能 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。[(2)エ]	授業時の観察 小テスト ワークシート			「資料を分析して考えをまとめる（アン

12月	実用の文章	書く	3	② 思考・判断・表現 「書くこと」において、目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。[B(1)ア] ③ 主体的に学習に取り組む態度 課題資料を踏まえて積極的に身近な例を考え、学習課題に沿って具体的にまとめようとしている。	振り返りシート等	・資料から読み取れることをまとめる。 ・自分の暮らす地域の課題について考える。 ・地域の再生、活性化のポイントを確認する。	資料の内容を踏まえて、自分の住む地域も再生・活性化案を考え、具体例とともに400字程度の文章にまとめる。	「ケート調査」 公共 「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」との関連
	言語技術の実践	書く	3	① 知識・技能 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。[(2)エ] ② 思考・判断・表現 「書くこと」において、目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にまとめている。[B(1)ア] ③ 主体的に学習に取り組む態度 調査内容の整理とともに課題を粘り強く検討し、レポートの形式に沿って自分の意見を明確に示そうとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート レポート等	・レポートとは何かを知る。 ・レポートを書く手順を理解する。	「スマートフォン」というトピックに対するテーマを設定し、レポートを作成する。	「レポート」 数学Ⅰ 「データの分析」との関連
1月	背景を理解する	話す・聞く	4	① 知識・技能 推論の意味、やり方を理解し使っている。[(2)ウ] ② 思考・判断・表現 「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。[B(1)イ] ③ 主体的に学習に取り組む態度 筆者の考えを参考にしながら実社会の状況や問題点を考察し、グラフを読み取り説明しようとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート等	・「電子アイデンティティの時代」とはどのような時代か、本文に即して説明する。 ・「プライバシーの関心対象」の変化とはどういうものか、背景も合わせて説明する。	グラフから読み取れることをまとめ、本文を踏まえながら自分の考えを書く。	「ポスト・プライバシー」(阪本俊生) 情報Ⅰ 「情報社会の問題解決」との関連
	実用の文章	話す・聞く	2	① 知識・技能 主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。[(2)ア] ② 思考・判断・表現 「話すこと・聞くこと」において、目的に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、伝え合う内容を検討している。[A(1)ア] ③ 主体的に学習に取り組む態度 解説内容を粘り強く理解し、論証の仕方について学習課題に沿って考えようとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート等	・商品レビューから、主張と根拠を読み取る。 ・論証とは何かを考える。	インターネットの「商品レビュー」をもとに、主張と根拠の関係、根拠の妥当性について話し合う。	「根拠の妥当性を説明する(商品レビュー)」 情報Ⅰ 「情報社会の問題解決」との関連
2月	背景を理解する	読む	3	① 知識・技能 実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めている。[(3)ア] ② 思考・判断・表現 「話すこと・聞くこと」において、自分の考えが的確に伝わるよう、自分の考えを明確にするとともに、話の構成を工夫している。[A(1)イ] ③ 主体的に学習に取り組む態度 同じテーマの文章を積極的に読み解き、学習課題に沿って自分の考えを発表しようとしている。	授業時の観察 ワークシート 振り返りシート 相互評価表等	・「学校教育のなかで時計の時間が価値基準になった」背景を本文からまとめる。 ・「誰もが自在に作りだしている今という時間を生きている」とはどういうことか説明する。	自分の興味ある「時間」にかんする本を読んで感想をまとめ、発表する。	「時間と自由の関係について」(内山節) 総合的な探求の時間との関連
	実用の文章	書く	3	① 知識・技能 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。[(2)エ] ② 思考・判断・表現 「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。[B(1)イ] ③ 主体的に学習に取り組む態度 必要な情報を取捨選択し、読み手が分かりやすいように文章をまとめようとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート等	・さまざまなグラフの特徴を知る。 ・実用文から必要な情報を読み取る。	新聞記事の内容を要約し、それに対する意見文を書く。	「グラフ・実用文の読み方」 数学科 「データの分析」との関連
3月	言語技術の実践	話す・聞く	5	① 知識・技能 推論の仕方を理解し使っている。[(2)ウ] ② 思考・判断・表現 「話すこと・聞くこと」において、論点を共有し、考えを上げたり深めたりしながら、話合いの目的に応じて、結論の出し方を工夫している。[A(1)オ] ③ 主体的に学習に取り組む態度 ディベートにおける論理の一貫性について進んで検討しようとしている。また、ディベートを踏まえて、自分の考え方について振り返り、積極的に話し合おうとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 相互評価表等	・セルフディベートを行う。 ・議論について調べた情報を整理し、根拠を明確にしつつ自分たちの立場に有利なように論理を組み立てる。	「すべての生徒がボランディア活動に参加すべきである」という議論についてディベートを行う。	「ディベート・討論」 公共 「公共の扉」との関連
領域ごとの計指導	話すこと・聞くこと		23					
	書くこと		30					
	読むこと		17					
指導時間数の合計			70					

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。(知識及び技能) ○生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や判断力を伸ばす。(思考力、判断力、表現力等) ○言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
言語文化	2	全日制・普通科・1学年	改訂版 高等学校 言語文化(数研出版)

科目の目標	○生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。(知識及び技能) ○論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等) ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)
-------	---

時期 月 週	単元名	領域	指導 時数	単元で育成する資質・能力 ＜単元の評価規準＞	評価方法	主な学習活動	主な言語活動	教材及び教科 等横断的な視 点等
4月	言語文化と古文 古文の世界を楽しむ	読む	3	① 知識・技能 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。〔2)ウ〕 ② 思考・判断・表現 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。〔B(1)ア〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に兄と僧の様子や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。	授業時の観察 ワークシート 小テスト 他	1 古文の読解に必要な語彙・語法・文法を確認する。 2 文章に書かれた人物、心情などを表現に即して読み味わう。	僧たちが「笑ふこと限りなし」となった理由を話し合う。	『宇治拾遺物語』『児のそら寝』 日本史探求 「中性の日本と世界」との関連
	日本語の中に生きる漢文 故事と成語	読む	3	① 知識・技能 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。〔2)ア〕 ② 思考・判断・表現 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。〔B(1)オ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 漢文に由来する学校名・会社名・人名などを調べて発表する課題において、積極的に自分の考えを説明しようとしている。	授業時の観察 評価表 ワークシート 小テスト 等	1 訓読の基礎を確認し、音読する。 2 語注などを参考にしながら大意を捉える。 3 この話がどのようなことを意味しているかを考え、まとめる。	漢文に由来する学校名・会社名・人物名などを調べたうえで、グループでその内容をまとめて発表する。	「入門一・二」 「漁夫之利」 歴史総合 「歴史の扉」との関連
5月	受け継がれる古文 探求への扉一比べ読み	読む	5	① 知識・技能 文章の意味は、文脈の中で形成されていることを理解している。〔1)エ〕 ② 思考・判断・表現 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。〔B(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 『羅生門』『今昔物語集』を読み比べ、そこにある相違が、作品にどのような効果を与えているか、考えようとしている。	授業時の観察 ワークシート 小テスト 等	1 文章を通読し、概要を把握する。 2 場面設定を確認する。 3 「下人」の心情の変化を確認する。 4 「老婆」の発言の内容をまとめる。 5 「下人」の考えの変化と、そのきっかけになったできごとについて考え、話し合う。	『今昔物語集』との相違点を理解し、『羅生門』にどのような効果をもたらしているか、話し合う。	『羅生門』 『今昔物語集』 日本史探求 「近現代の地域・日本と世界」との関連
	現代にも生きる教え	読む	4	① 知識・技能 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。〔2)ウ〕 ② 思考・判断・表現 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。〔B(1)ア〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。〔B(1)ア〕	授業時の観察 評価表 ワークシート 小テスト 等	1 「神無月のころ」を音読し、大意を捉える。 2 「柑子の木」を見た筆者の思いを捉え、筆者の考え方を読み取る。 3 「ある人、弓射ることを習ふに」を音読し、作者がこの文章で主張しようとしていることを理解する。	『徒然草』の中から、自分にとって納得できる意見を探し、具体的な事例と関連付けてグループ内で発表する。	『徒然草』 「神無月のころ」 「ある人、弓射ることを習ふに」 日本史探求 「中性の日本と世界」との関連
6月	故事と成語	読む	4	① 知識・技能 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。〔2)ア〕 ② 思考・判断・表現 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。〔B(1)エ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 故事成語の用例を調べて発表する課題において、粘り強く用例調査に取り組んでいる。	授業時の観察 評価表 ワークシート 小テスト 等	1 「矛盾」を音読し、語注を参考にしながら大意を捉える。 2 この話がどのようなことを意味しているか考え、まとめる。 3 「朝三暮四」を音読し、語注を参考にしながら大意を捉える。 4 この話がどのようなことを意味しているか考え、まとめる。	現代日本語における漢文由来の故事成語の用例を調べたうえで、グループでその内容をまとめて発表する。	「矛盾」 「朝三暮四」 英語コミュニケーションⅠ 「読むこと」との関連
	「ことば」を吟味する	読む	5	① 知識・技能 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔1)ウ〕 ② 思考・判断・表現 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。〔B(1)イ〕	授業時の観察 ワークシート 小テスト 等	1 文章を通読し、概要を把握する。 2 場面設定を確認する。 3 馬締と西岡の考え方の違いを読み取り、それぞれの良さを理解する。 4 辞書を作るという仕事に就いている人々の熱意を理解する。	作品の内容を踏まえて、辞書編集者になったつもりで、言葉の意味を自分なりに説明する。	「舟を編む」 英語コミュニケーションⅠ 「話すこと(やり取り)」との関連

7月	和歌による心の交流	読む	③ 主体的に学習に取り組む態度 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って考察しようとしている。	授業時の観察 ワークシート 小テスト 等	1 「芥川」を音読し、訳文を参考にして大意を捉える。 2 前半部の「男」の行動を整理する。 3 和歌にこめられた「男」の心情を読み取る。 4 「筒井筒」の段を音読し、大意を捉える。 5 「筒井筒…」 「比べ来し…」 の和歌から、「男」と「女」の心情を読み取る。 6 「風吹けば…」の和歌を聞いた男の心情の変化を読み取る。	同じ内容を扱った歌物語と説話の差異を考察し、話し合う。	『伊勢物語』 「芥川」 「筒井筒」 論理・表現 I 「話すこと (やり取り)」との関連
			① 知識・技能 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 [(2)ウ] ② 思考・判断・表現 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 [B (1)エ] ③ 主体的に学習に取り組む態度 粘り強く『伊勢物語』と『今昔物語集』の違いを抽出し、学習課題に沿って文章表現についての話し合いに参加しようとしている。				
9月	読み継がれる歴史	読む	① 知識・技能 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 [(2)イ] ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 [B (1)エ] ③ 主体的に学習に取り組む態度 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って調査・発表に取り組んでいる。	授業時の観察 ワークシート 小テスト 等	1 本文を通読し、大意を捉える。 2 管仲の三つの行動に対する評価や態度を理解する。 3 管仲の言葉に込められている気持ちを理解する。	「管鮑の交わり」は現在どのような意味で用いられているか調べる。	「管鮑之交」 「先從隗始」 歴史総合 「歴史の扉」 との関連
			① 知識・技能 文章の意味は、文脈の中で形成されていることを理解している。 [(1)エ] ② 思考・判断・表現 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 [B (1)ア] ③ 主体的に学習に取り組む態度 人間が虎になるという設定の効果について粘り強く考察し、これまでの学習を生かして考えようとしている。				
10月	受け継がれる漢文	読む	① 知識・技能 文章の意味は、文脈の中で形成されていることを理解している。 [(1)エ] ② 思考・判断・表現 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 [B (1)ア] ③ 主体的に学習に取り組む態度 人間が虎になるという設定の効果について粘り強く考察し、これまでの学習を生かして考えようとしている。	授業時の観察 ワークシート 小テスト 等	1 小説の基本的な読み方を習得する。 2 すぐれた短編小説の持つ緻密な構成や文体を読み味わう。 3 小説を自己の問題に引きつけながら読む姿勢を養う。 4 主人公の性格や生き方を鏡として、自分の中にあるかもしれない「虎」について振り返り、思索を深める。	作者がこの作品を人間が虎になるという設定にした意図を考える。	「山月記」 「人虎伝」 歴史総合 「歴史の扉」 との関連
			① 知識・技能 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 [(2)ウ] ② 思考・判断・表現 自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫すること。 [A (1)イ] ③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に古文を自分に引きつけて解釈し、学習課題に沿って現代語の随筆を書くようとしている。				
11月	平安宮廷文学の世界	読む	① 知識・技能 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 [(2)ウ] ② 思考・判断・表現 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 [B (1)エ] ③ 主体的に学習に取り組む態度 粘り強く『枕草子』と『白氏文集』の主題の違いを考え、今までの学習を生かして話し合いに参加しようとしている。	授業時の観察 ワークシート 小テスト 等	1 本文を通読し、大意を捉える。 2 作者の人物像を捉える。	文章中に取り入れられた漢詩の摂取態度について話し合う。	『枕草子』 「ありがたきもの」 日本史探求 「中性の日本と世界」との関連
			① 知識・技能 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 [(2)ア] ② 思考・判断・表現 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 [B (1)エ] ③ 主体的に学習に取り組む態度 由来について諸説ある漢語「葡萄」「琵琶」の語源説を調べる活動において、粘り強く調査に取り組んでいる。				
12月	漢詩のこぼ	読む	① 知識・技能 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 [(1)ウ] ② 思考・判断・表現 自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。 [A (1)イ] ③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に古典和歌と自分の体験とを結びつけ、学習課題に沿って本歌取りの短歌を創作しようとしている。	観察 ワークシート 小テスト	1 和歌の印象的な部分について考える。 2 自分の感じたことを言葉にする。	教科書掲載の和歌を本歌とした短歌を創作する。	「新古今和歌集」 日本史探求 「中性の日本と世界」との関連
			① 知識・技能 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 [(2)ウ] ② 思考・判断・表現 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 [(2)ウ]				
12月	詩歌の系譜	書く	① 知識・技能 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 [(1)ウ] ② 思考・判断・表現 自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。 [A (1)イ] ③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に古典和歌と自分の体験とを結びつけ、学習課題に沿って本歌取りの短歌を創作しようとしている。	観察 ワークシート 小テスト	1 「門出」を通読し大意を捉える。 2 女性に仮託して書いた作者の意図を理解する。	当時の月の異名や時刻の表し方を調べ、現代にその名残がある例を探す。	『土佐日記』 「門出」 日本史探求 「中性の日本と世界」との関連
			① 知識・技能 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 [(2)ウ] ② 思考・判断・表現 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 [(2)ウ]				

				③ 主体的に学習に取り組む態度 旧暦や古時刻、旧国名といった古典常識について積極的に調べ、学習課題に沿って理解を深めようとしている。				
1月	論語とその注釈	読む	3	① 知識・技能 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。〔(2)ア〕 ② 思考・判断・表現 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。〔B(1)エ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 教材本文の解釈上の異説を調べる活動において、粘り強く調査に取り組んでいる。	授業時の観察 ワークシート 小テスト 等	1 漢文訓読のきまりを理解する。 2 『論語』の名言を味わい、現代に生きている言葉や考え方について理解を深める。	図書館で『論語』の口語訳を掲載している本を探し、同じ章句について複数の解釈をしているものがないか調べる。	『論語』 世界史探究 「諸地域の歴史的特質の形成」との関連
	詩歌の系譜	書く	3	① 知識・技能 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔(1)ウ〕 ② 思考・判断・表現 自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。〔A(1)ア〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 学習課題に沿って、粘り強く鑑賞文の作成に取り組もうとしている。	授業時の観察 ワークシート 小テスト 等	1 作品を読み、その中から一つ選んで、書き写したり音読したりする。 2 その作品を選んだ理由や、感想を交流する。 3 素材について感じたことや思ったこと、発見したことなどを書きとめる。 4 表現を工夫して、短歌を作る	鑑賞文を自分なりの表現を考えて書く。	「短歌」 英語コミュニケーションⅠ 「書くこと」との関連
2月	論説の文章	読む	3	① 知識・技能 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。〔(2)イ〕 ② 思考・判断・表現 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。〔B(1)エ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 「雑説」の執筆背景を調べる活動において、粘り強く調査に取り組んでいる。	授業時の観察 ワークシート 小テスト 等	1 漢文訓読のきまりを理解する。 2 「千里の馬」がその才能を発揮するためには何が必要か読み取る。	能力によって人材を登用するための科挙がありながら、なぜ韓愈はこのような文章を書いたのか話し合う。	「雑説」 世界史探究 「諸地域の歴史的特質の形成」との関連
	記録する文学	読む	5	① 知識・技能 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔(1)ウ〕 ② 思考・判断・表現 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができている。〔B(1)オ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 近現代に書かれた戦争文学を積極的に調査し、学習課題に沿って発表しようとしている。	授業時の観察 ワークシート 小テスト 等	1 全文を通読し大意を捉える。 2 登場人物について立場とそれぞれの考え方を理解する。 3 表現の特徴を捉え、そこから分かる心情を理解する。	近現代に書かれた戦争に関する作品の背景を調べ、発表する。	「沖縄の手記から」 情報Ⅰ 「情報通信ネットワークとデータの活用」・総合的な探求の時間との関連
3月	先人を思う旅	読む	3	① 知識・技能 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。〔(2)ウ〕 ② 思考・判断・表現 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。〔B(1)エ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 改作前後の句について粘り強く比較し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	授業時の観察 ワークシート 小テスト 等	1 本文を通読し、大意を捉える。 2 作者の感動の中心を理解し、作者の人生観を読み取る。 3 文章構成の特徴を押さえる。	「五月雨の降り残してや光堂」の句は、改作によってどのように変化したか話し合う。	『おくのほそ道』 「序一漂泊の思ひ」 「平泉」 日本史探究 「近世の日本と世界」との関連
領域ごとの指導時間数の計	話すこと・聞くこと							
	書くこと		10					
	読むこと		60					
	指導時間数の合計		70					

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○何を理解しているか、何が出来るか(知識及び技能) 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ○理解していること・できることをどう使うか(思考力、判断力、表現力等) 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等) 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。□
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
地理総合	2	全日制・普通科・1学年	『高等学校 新地理総合』(帝国書院)
科目の目標	(1)地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球の課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようになる。 (2)地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3)地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、わが国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。		

時期 月 週 日	単元・題材名	時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月	第1章 地図と地理情報システム 1節 地球用の位置と時差 2節 地図の役割と種類 第2章 結び付きを深める現代世界 1節 現代世界の国家と領域	5	① 知識・技能 日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解している。 現代世界のさまざまな地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付けている。 ② 思考・判断・表現 地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 地図や地理情報システムについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	定期考査 定期考査(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	・世界各地における、太陽高度や昼夜の時間の季節変化と、標準時を確認し、緯度や経度との関係について考察する。 ・地球儀上で方位や距離を計測し、さまざまな世界地図での描かれ方と比較することで、世界地図の特徴を捉える。など	・資料をもとに根拠に基づいて考えをまとめる。 ・テーマを決めて複数の本や資料などを読み、内容を比較したり、批判的に捉えたりするなど、知識や考えを深める。など	
5月	2節 グローバル化する世界 第1章 生活文化の多様性と国際理解 序説 生活文化の多様性 1節 世界の地形と人々の生活	7	① 知識・技能 世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。 世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。 ② 思考・判断・表現 世界の人々の生活文化について、その生活文化がみられる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	定期考査 定期考査(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	・写真や具体例を用いて、文化とその多様性について理解する。 ・地図を用いて、世界の宗教分布について歴史的背景を含めて理解を深める。など	・グループで協同的に問題を解決するため、学習の見通しを立てたり、調べた結果を分析し、議論する。など	
6月	2節 世界の気候と人々の生活	6	① 知識・技能 気候が生活に与える影響、気温のしくみと分布の特徴、降水のしくみと分布の特徴について理解している。 ② 思考・判断・表現 気候が生活に与える影響、気温のしくみと分布の特徴、降水のしくみと分布の特徴について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 気候が生活に与える影響、気温のしくみと分布の特徴、降水のしくみと分布の特徴について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	定期考査 定期考査(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	・地図を用いて、気温の高い/低い地域や降水量の多い/少ない地域の分布を捉えたり、写真を用いて、地域による気候の多様性を理解する。など	・グループで協同的に問題を解決するため、学習の見通しを立てたり、調べた結果を分析し、議論する。など	
7月	3節 世界の言語・宗教と人々の生活	5	① 知識・技能 言語と民族の関わり、公用語と人々の生活への影響について理解している。 ② 思考・判断・表現 言語と民族の関わり、公用語と人々の生活への影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 言語と民族の関わり、公用語と人々の生活への影響について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	定期考査 定期考査(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	・写真や具体例を用いて、文化とその多様性について理解する。 ・地図を用いて、世界の宗教分布について歴史的背景を含めて理解する。など	・グループで協同的に問題を解決するため、学習の見通しを立てたり、調べた結果を分析し、議論する。など	・世界の言語の特徴や、公用語と人々の生活への影響などを考察するため、英語科との連携を図る。

9月	4節 歴史的背景と人々の生活 5節 世界の産業と人々の生活	7	① 知識・技能 ・生活文化に影響した歴史的背景、冷戦時代の体制が生活に与える影響について理解している。 ・人々の工夫と農業の発展、農業の発展と生産性、農業の近代化とその課題について理解している。 ② 思考・判断・表現 ・生活文化に影響した歴史的背景、冷戦時代の体制が生活に与える影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・人々の工夫と農業の発展、農業の発展と生産性、農業の近代化とその課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・生活文化に影響した歴史的背景、冷戦時代の体制が生活に与える影響について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ・人々の工夫と農業の発展、農業の発展と生産性、農業の近代化とその課題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	定期考査 定期考査（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	・写真や主題図を用いて、世界の食文化の多様性と農業の地域性について考察する。など	・グループで協同的に問題を解決するため、学習の見通しを立てたり、調べた結果を分析し、議論する。など
10月	第2章 地球的課題と国際 1節 複雑に絡み合う地球的課題 2節 地球環境問題	8	① 知識・技能 世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題の解決の方向性などについて理解している。 ② 思考・判断・表現 世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現地の要因・解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	定期考査 定期考査（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	・主題図を用いて地球環境問題の現状について視覚的に捉える。 ・統計から地球温暖化の現状を把握し、その背景・要因とそれがもたらす問題について考察する。など	・資料をもとに根拠に基づいて考えをまとめる。 ・テーマを決めて複数の本や資料などを読み、内容を比較したり、批判的に捉えたりするなど、知識や考えを深める。など
11月	3節 資源・エネルギー問題 4節 人口問題	7	① 知識・技能 エネルギーの種類と資源利用の変化、国によって異なる電力構成、鉱産資源の利用について理解している。 ② 思考・判断・表現 エネルギーの種類と資源利用の変化、国によって異なる電力構成、鉱産資源の利用について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 エネルギーの種類と資源利用の変化、国によって異なる電力構成、鉱産資源の利用について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	定期考査 定期考査（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	・統計を用いて、エネルギー消費の南北格差の現状とその背景について考察する。 ・統計を用いて、原油価格の推移とその背景について国際政治・経済との関わりから考察する。など	・グループで協同的に問題を解決するため、学習の見通しを立てたり、調べた結果を分析し、議論する。など
12月	5節 食料問題 6節 都市・居住問題	7	① 知識・技能 発展途上国の飢餓の問題、先進国に偏る食料の問題について理解している。 ② 思考・判断・表現 発展途上国の飢餓の問題、先進国に偏る食料の問題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 発展途上国の飢餓の問題、先進国に偏る食料の問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	定期考査 定期考査（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	・統計や主題図を用いて世界の人口分布と人口増加の特徴を把握し、その背景について考察する。 ・主題図や統計を用いて、世界の食料増産・供給の地域差を認識し、食料問題の存在を把握する。など	・グループで協同的に問題を解決するため、学習の見通しを立てたり、調べた結果を分析し、議論する。など
1月	第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境 2節 地震・津波と防災 3節 自然災害と防災	7	① 知識・技能 我が国をはじめ世界でみられる自然災害や生徒の生活圏でみられる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解している。 さまざまな自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的スキルを身に付けている。 ② 思考・判断・表現 地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	定期考査 定期考査（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	・地形の特性と自然災害との関係性について、主題図や衛星画像などを用いて考察する。 ・日本列島の気候の特性と自然災害との関係性について、地形学習の成果をふまえて考察する。など	・グループで協同的に問題を解決するため、学習の見通しを立てたり、調べた結果を分析し、議論する。など
2月	4節 気象災害と防災 5節 自然災害への備え	6	① 知識・技能 被災地の自助・共助・公助、復旧・復興の取り組みについて理解しており、地理的スキルを身に付けている。 ② 思考・判断・表現 被災地の自助・共助・公助、復旧・復興の取り組みについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 被災地の自助・共助・公助、復旧・復興の取り組みについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	定期考査 定期考査（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	・地震や津波の発生メカニズムについて模式図を用いて考察する。 ・地震や津波によってもたらされる被害の状況について、複数の写真を用いて考察する。など	・グループで協同的に問題を解決するため、学習の見通しを立てたり、調べた結果を分析し、議論する。など

3月	第2章 生活圏の調査と地域の展望 1節 生活圏の調査と地域の展望	5	<p>① 知識・技能 生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 生活圏の調査と地域の展望について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p>	<p>定期考査</p> <p>定期考査（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り</p> <p>レポート課題 討論・発表 学習の振り返り</p>	<p>・学校周辺地域における新旧の地形図や統計を用いて地域の変容について考察する。 ・地域調査の一連の流れをふまえながら、学校周辺地域で生じている複数の課題を見だし、班ごとに調査テーマを設定する。 ・地域調査の一連の流れをふまえながら、班ごとに身近な地域の調査計画を立案するなど</p>	<p>・資料をもとに根拠に基づいて考えをまとめる。 ・テーマを決めて複数の本や資料などを読み、内容を比較したり、批判的に捉えたりするなど、知識や考えを深める。など</p>	<p>・地域の状況やその課題などを検討するため、公民科との連携を図る。</p>
指導時間数の計		70					

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力で解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	---

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか(知識及び技能) 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付けるようにする。 ○理解していること・できることをどう使うか(思考力、判断力、表現力等) 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等) 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
歴史総合	2	全日制・普通科・1学年	『明解 歴史総合』(帝国書院)

科目の目標	(1) 近現代の歴史の変化に関する諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
-------	--

時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月	第1部1章 歴史と私たち 2章 歴史の特質と資料 第2部 1章 近代化への問い 2章 江戸時代の日本と結びつく世界 1 アジアのなかの江戸社会 2 清の繁栄と結びつく東アジア	6	① 知識・技能 身の回りの事象と世界の歴史がつながっていることを理解している。 ② 思考・判断・表現 身の回りの事象と世界の歴史とのつながりについて考察し、自分の考えを表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 中学校までの学習を踏まえて、見通しをもって学習に取り組もうとし、問いを繰り返し洗練させていくなど、粘り強く取り組もうとしている。	定期考査 定期考査(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	・絵画・史料・数値など歴史における史資料の重要性と、事実と解釈を分けて読みとるなど、諸資料を多面的・多角的に考察し、表現する。など	・資料をもとに根拠に基づいて考えをまとめる。 ・テーマを決めて複数の本や資料などを読み、内容を比較したり、批判的に捉えたりするなど、知識や考えを深める。など	
5月	3 アジア・アメリカに向かうヨーロッパ 3章 欧米で生まれる国民国家 1 イギリスの革命とアメリカの独立 2 フランス革命～ヨーロッパ近代の幕開け	7	① 知識・技能 市民社会と国民国家の形成、資本主義社会と国際分業体制の確立の経緯を理解している。 ② 思考・判断・表現 市民革命および産業革命の経緯などから、諸改革の意義と現代社会との関わりを考察し、自分の言葉で表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 市民革命や産業革命が現代社会に与えた影響について、解決策を追究しようとしている。	定期考査 定期考査(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	・工業化と世界市場の形成に対する問いを表現し、小単元の学習の見通しを立てる。 ・イギリスで起こった産業革命と、産業革命後の資本主義の確立について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。など	・グループで協同的に問題を解決するため、学習の見通しを立てたり、調べた結果を分析し、議論する。など	・海外文献の読解・比較など、英語科との連携を図る。
6月	3 革命の拡大と国民意識の芽生え 4 1848年～近代ヨーロッパの転換点 5 イタリア・ドイツの統一とロシアの近代化 4章 産業革命による欧米とアジアの変化 1 産業革命で変わる社会 2 イギリスの繁栄と国際分業体制 3 アメリカの拡大と科学技術の発展	6	① 知識・技能 国民国家の展開と手一主義による世界分割や移民の状況を理解している。 ② 思考・判断・表現 国民国家の形成・発展による対外戦争や差別・抑圧、帝国主義が人類に与えた変化について、自分の言葉で表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 国民国家や帝国主義政策が現代社会に与えた影響について、追究しようとしている。	定期考査 定期考査(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	19世紀の欧米で広まった自由主義とナショナリズムの運動によって生み出された国民国家について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。	・グループで協同的に問題を解決するため、学習の見通しを立てたり、調べた結果を分析し、議論する。など	
7月	4 「西洋の衝撃」と西アジアの変化 5 南・東南アジアの植民地化 6 ヨーロッパの日本接近とアヘン戦争 7 黒船来航と日本の対応 5章 日本における近代国家の形成 1 新体制の模索と江戸幕府の滅亡 2 新政府の誕生 3 近代国家を目指す日本	7	① 知識・技能 欧米諸国の進出によるアジア諸国の変容について理解している。 ② 思考・判断・表現 アジア諸国の変容を比較したり関連付けたりして考察し、「西洋の衝撃」の歴史的意義について自分の言葉で表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 欧米諸国の進出とアジア諸国の変容が現代社会にどのような課題を生み出したかについて考察し、追究しようとしている。	定期考査 定期考査(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	19世紀の東アジアが、不平等条約の締結によって、西欧諸国とどのように関わり、どのように変化していったのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。など	・グループで協同的に問題を解決するため、学習の見通しを立てたり、調べた結果を分析し、議論する。など	
	6章 帝国主義の影響と日本を含めた東アジアの変化 1 帝国主義の広がりや人々の移動 2 世界市場と日本の産業革命		① 知識・技能 ・明治維新とその後の日本の変化やアジア諸国の変容について理解している。 ・2部で学習したことを基に、近代化を特色づける4つの項目についてまとめ、近代化を特徴を理解する。	定期考査(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	・立憲体制と国民国家の形成に対する問いを表現し、小単元の学習の見通しを立てる。 ・20世紀はじめの帝国主義に対する批判の動きや、その当時の国際関係の再編について	・資料をもとに根拠に基づいて考えをまとめる。 ・テーマを決めて複数の本や資料などを読み、内容を	

9月	3 変動する東アジアと日露戦争 4 列強の中国進出と日露戦争 5 日露戦争が与えた影響 7章「近代化」を振り返り現代的な諸課題を結びつけて考えよう	8	② 思考・判断・表現 ・明治維新の歴史的意義について、現代の日本への影響と関連付けて考察し、自分の言葉で表現している。 ・2部の最初に立てた問いに対し、キーワードとなる5つの視点のいずれかから考察し、史資料を用いて根拠を明らかにして、自分なりの見解を表現する。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・明治維新やアジア諸国の変容が、現代社会にどのような課題を与えたかについて考察し、解決策を追究しようとしている。 ・近代化に関連する現代の課題について考察し、歴史的な経緯を踏まえたうえで自分なりの解決策を追究しようとしている。	定期考査（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	て、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。など	比較したり、批判的に捉えたりするなど、知識や考えを深める。など
10月	第3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1章 国際秩序の変化や大衆化への問い 第2章 第一次世界大戦と日本の対応 1 バルカン半島の緊張と世界大戦への道 2 第一次世界大戦の展開とロシア革命 3 大戦終結後のヴェルサイユ体制 4 東アジアの民族自決の行方 5 中東・インドの民族自決 3章 大衆社会の形成と社会運動 1 大衆社会の出現とアメリカの繁栄 2 ヨーロッパの復興と大衆の政治参加 3 日本における大衆社会の形成 4 政党政治と国際協調外交の発展 4章 揺らぐ国際秩序と日本の行方 1 世界恐慌が与えた影響 2 ファシズムの台頭と拡大	7	① 知識・技能 国際関係の視点を軸に、第一次世界大戦勃発から終戦までの経緯と、参戦各国の社会の変化について理解している。 ② 思考・判断・表現 第一次世界大戦の総力戦体制下において、列強の戦闘員・列強の非戦闘員・植民地や従属地域の人々がそれぞれどのような目的で戦争に協力したのかを考察し、自分の言葉で表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 勢力均衡に基づく国際秩序と大衆の戦争参加が、現在の社会につながるどのような課題を生み出したのかについて考察し、解決策について追究しようとしている。	定期考査（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り 定期考査（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	・国際協調体制の動揺についての問いを表現し、小単元の学習の見通しを立てる。など	・グループで協同的に問題を解決するため、学習の見通しを立てたり、調べた結果を分析し、議論する。など
11月	3 政党政治の断絶と満州事変 4 日中戦争の始まり 5章 第二次世界大戦とその影響 1 第二次世界大戦の始まりと拡大 2 太平洋戦争の開始とその展開 3 第二次世界大戦の終結とその影響 4 戦後処理と日本の改革 5 新たな国際秩序と冷戦の始まり 6 日本撤退後の東アジア 7 冷戦の展開と日本の独立	7	① 知識・技能 ①世界恐慌から第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯について、大衆とマスメディアの関わりに着目しながら理解している。 ② 思考・判断・表現 ファシズム体制の形成から終戦に至るまで、ドイツや日本で大衆がなぜ戦争に協力していったのかを考察し、自分の言葉で表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 大衆の戦争への加担という問題を現代社会における課題としてとらえ、その解決策を追究しようとしている。	定期考査（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り 定期考査（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	・第二次世界大戦がどのようなように拡大したか、また、日中戦争やアジア太平洋戦争とどのように結びついたのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。など	・グループで協同的に問題を解決するため、学習の見通しを立てたり、調べた結果を分析し、議論する。など
12月	6章「国際秩序の変化や大衆化」を振り返り現代的な諸課題と結びつけて考えよう！	4	① 知識・技能 3部で学習したことを基に、国際秩序の変化や大衆化が進展した時期についてまとめ、その特徴を理解している。 ② 思考・判断・表現 3部序章で立てた問いに対し、キーワードとなる5つの視点のいずれかから考察し、史資料を用いて根拠を明らかにして、自分なりの見解を表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 国際秩序の変化や大衆化に関連する現代の課題について考察し、歴史的な経緯を踏まえたうえで自分なりの解決策を追究しようとしている。	定期考査 定期考査（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	国際政治の変容についての問いを表現し、小単元の学習の見通しを立てる。など	・グループで協同的に問題を解決するため、学習の見通しを立てたり、調べた結果を分析し、議論する。など
1月	第4部 グローバル化と私たち 1章「グローバル化」への問い 2章 冷戦で揺れる世界と日本 1 スターリン批判と日本の国際社会復帰 2 米ソの緊張緩和と各国の同国 3 第三勢力の形成と脱植民地化 4 パレスチナ問題と中東戦争	4	① 知識・技能 ・グローバル化に関わる史資料を読み解く技能を身に付けている。 ・55年体制の形成から高度経済成長に至る日本の動きを、冷戦下の国際情勢を踏まえながらその中に位置づけて理解している。 ② 思考・判断・表現 ・資料から得た情報と、中学校までの学習で得た知識を総合し、グローバル化を読み解く問いを表現している。 ・冷戦下の日本と世界の動向について、政治・経済の関連や諸地域間の比較を通して多面的に考察し、自分の言葉で表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・中学校までの学習を踏まえて、見通しをもって学習に取り組もうとし、問いを繰り返し洗練させていくなど、粘り強く取り組もうとしている。 ・冷戦期における各国の動向、現在の社会においてどのような課題を生み出したのかを考察し、解決策について追究しようとしている。	定期考査（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り 定期考査（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	冷戦が拡大しながらも共存していく過程や、そのなかでアジア・アフリカ諸国に独自の動きが現れたことについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。など	・資料をもとに根拠に基づいて考えをまとめる。 ・テーマを決めて複数の本や資料などを読み、内容を比較したり、批判的に捉えたりするなど、知識や考えを深める。など
2月	3章 多極化する世界 1 ベトナム戦争と揺らぐアメリカと 2 冷戦下の日本とアジアの歩み 3 「経済大国」日本の影響 4 経済発展に取り組む東・東南アジア 5 中東情勢とソ連の弱体化	5	① 知識・技能 1960年代から80年代を中心に、冷戦下における各国の選択と経済成長について理解している。 ② 思考・判断・表現 各国の選択を比較し、「東アジアの奇跡」が起こった要因や世界史における意義について考察し、自分の言葉で表現している。	定期考査 定期考査（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	・世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会についての問いを表現し、小単元の学習の見通しを立てる。など	・グループで協同的に問題を解決するため、学習の見通しを立てたり、調べた結果を分析し、議論する。など

	<p>4章 グローバル化のなかの世界と日本 1 冷戦の終結と変わる世界構造</p>	<p>③ 主体的に学習に取り組む態度 冷戦下における各国の政治的・経済的選択が、現代社会にどのような課題を生み出したのか考察し、解決策について追究しようとしている。</p>	<p>レポート課題 討論・発表 学習の振り返り</p>			
<p>3月</p>	<p>2 冷戦の終結が与えた世界への影響 3 超大国アメリカと中東情勢 4 国際環境の変化と日本 5 グローバル化による国際社会の変容 5章「歴史総合」を振り返り現代的な諸課題の形成と展望を考えよう！</p>	<p>9</p> <p>① 知識・技能 ・冷戦終結の過程とグローバル化の特質について理解している。 ・4部で学習したことを基に、グローバル化についてメリットとデメリットについてまとめ、その特徴を理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 ・グローバル化の進展や地域統合、ナショナリズムの強化について各地域を比較して考察し、その特質や問題点を自分の言葉で表現している。 ・歴史を読み解く5つの視点を踏まえ、これまで学習した内容から現代的な諸課題を一つ取り上げて探究の方向性を決める問いを設定し、教科書や他の資料を用いてまとめた上で、課題の解決へ向けた自分の見解を表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・冷戦の終結とグローバル化の進展がどのような課題を生み出したのかについて考察し、解決策について追究しようとしている。 ・自ら設定した問いに対し、学習して身に付けた知識や教科書、その他の史資料を活用して、課題の解決のために、主体的・計画的に探究学習に取り組もうとしている。</p>	<p>定期考査</p> <p>定期考査（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り</p> <p>レポート課題 討論・発表 学習の振り返り</p>	<p>・欧米先進国や日本の経済成長の特徴と、経済成長がもたらした社会の変容や環境問題について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・グローバル化の進展によって世界が抱えた問題点や、その解決に向けての取り組みについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。など</p>	<p>・資料をもとに根拠に基づいて考えをまとめる。 ・テーマを決めて複数の本や資料などを読み、内容を比較したり、批判的に捉えたりするなど、知識や考えを深める。など</p>	<p>・国際経済や国際政治の動向を捉えるなど、公民科との連携を図る。</p>
<p>指導時間数の計</p>	<p>70</p>					

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。(知識及び技能) ○数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。(思考力、判断力、表現力等) ○数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。(学びに向かう力、人間性等)
-------	--

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
数学Ⅰ	3	全日制・普通科・1学年	Standard 数学Ⅰ(東京書籍)

科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
-------	---

時期	単元・題材名	指導時数	単元・題材で育成する資質・能力 <単元・題材の評価規準>	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月	1章 数と式 1節 式の計算 1 展開 2 因数分解	8	① 知識・技能 単項式、多項式、項、次数、係数、定数項、同類項、多項式の次数、n次式など、式についての用語の意味を理解している。 指数法則や乗法公式といった計算規則についての理解を深め、適切に式を変形することができる。 中学校で学んだ因数分解について振り返り、既に学んだ公式を適切に利用して式を因数分解することができる。 乗法公式を逆に用いることで因数分解の公式として利用できることを理解し、式を正しく因数分解することができる。 ② 思考・判断・表現 具体的な単項式の計算をもとに、指数に関する計算規則について考察することができる。 式を多面的に捉える工夫の中から、目的に応じて適切な方法を判断することができる。 x^2 の係数が1ではない2次式を因数分解する方法について、乗法公式をもとにして考察することができる。 式の特徴に応じて、式の一部を1つの文字に置き換えて考えたり、特定の文字に着目して整理するなど、見通しをもって式を因数分解したりすることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 具体的な単項式の計算をもとに、指数に関する計算規則について考えようとしている。 式を多面的に捉えて、複数の方法で式を変形する方法について、それぞれのよさを比較・検討しようとしている。 x^2 の係数が1ではない2次式を因数分解する方法について、乗法公式をもとにして考えようとしている。 式を多面的に捉えて、複数の見方で式を整理して因数分解する方法について、それぞれの良さを比較・検討しようとしている。	定期考査 提出物 ワークシート 定期考査 提出物 ワークシート 定期考査 提出物 振り返りシート	単項式、多項式、項、次数、係数、定数項、同類項、多項式の次数、n次式など、式についての用語の意味理解、及び指数法則、乗法公式などについての理解を深め、目的に応じて式を多面的に捉えたり変形したりして展開できる力を培う。 中学校で学んだ因数分解について振り返り、乗法公式を逆に用いた因数分解の公式を理解するとともに、式の一部を1つの文字に置き換えて考えたり、特定の文字に着目したりするなど、見通しをもって因数分解することができる。	生徒が式や図・資料を参考としながら、自らの考えを発表し、議論する。	
			① 知識・技能 数に関連する用語の意味や、循環小数を表す記号について理解している。 実数が四則演算に関して閉じていることについて理解している。 実数が数直線上の点と1対1に対応していることを理解し、それに基づいた実数の絶対値の定義について理解している。 簡単な無理数の四則演算や分母を有理化することができる。 不等式の意味やその基本性質、不等式の解と不等式を解くことの意味について理解し、1次不等式を解くことができる。	定期考査 提出物 ワークシート	自然数、整数、有理数、無理数、実数の意味を理解し、実数が四則演算に関して閉じていることなどについて理解する。また、分数が有限小数や循環小数で表される仕組みや絶対値の定義をもとに、絶対値記号を含む式の計算について理解する。 根号を含む式の計算ができる。また、分母の有理化について理解し、基本的な計算ができるとともに、分母の有理化	生徒が式や図・資料を参考としながら、自らの考えを発表し、議論する。	

5月	2節 実数 1節 実数 2節 根号を含む式の計算 3節 二次不等式 1節 不等式と1次不等式	11 ② 思考・判断・表現 有理数を小数で表すと、有限小数または循環小数となる理由について説明することができる。 場合分けの考え方をを用いて、実数aについて等式 $\sqrt{(a^2)}= a $ が成り立つ理由を考察することができる。 分母が平方根の和や差で表されている数を有理化する方法について、適切な乗法公式を活用して考察することができる。 分母の有理化及び乗法公式を適切に利用して、複雑な式の値を求める問題を解決することができる。 具体的な数の大小関係をもとにして、不等式の基本性質について考察したり、説明したりすることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 有理数を小数で表すと、有限小数または循環小数となる理由について考えようとしている。 場合分けの考え方をを用いて、実数aについて等式 $\sqrt{(a^2)}= a $ が成り立つ理由を考えようとしている。 分母が平方根の和や差で表されている数を有理化する方法について、乗法公式を適切に活用して考えようとしている。 具体的な数の大小関係をもとにして、不等式の基本性質について考察したり、説明したりしようとしている。	定期考査 提出物 ワークシート 定期考査 提出物 振り返りシート	化を活用して式の値を求めることができる。 不等式の意味を理解し、不等式の基本性質を理解する。さらに、不等式の性質をもとに、不等式の解と不等式を解くことの意味を理解し、1次不等式を解くことができる。		
6月	3節 二次不等式 2節 不等式の応用 2章 集合と論証 1節 集合 1節 集合	11 ① 知識・技能 連立1次不等式を解くことができる。 集合に関する基本的な概念や記号の意味を理解し、適切に用いることができる。 要素の条件を正しく読み取り、与えられた集合を要素を書き並べる方法で表すことができる。 ② 思考・判断・表現 連立方程式の意味や連立1次不等式の解法の仕組みについて考察することができる。 日常の事象や社会の事象を数学的に捉えて、実数の大小関係に関する条件を不等式で表すことや、連立不等式の考え方を利用して身近な問題を解決することができる。 具体的な集合の例をもとにして、集合同士の共通部分や和集合の概念について考察することができる。 集合を図で表すことによって、ド・モルガンの法則が成り立つことを説明することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 連立方程式の意味や連立1次不等式の解法の仕組みについて考えようとしている。 具体的な集合の例をもとにして、集合同士の共通部分や和集合の概念について考えようとしている。 集合を図で表すことによって、ド・モルガンの法則が成り立つことを説明しようとしている。	定期考査 提出物 ワークシート 定期考査 提出物 ワークシート 定期考査 提出物 振り返りシート	連立1次不等式を解くことができる。また、具体的な問題の解決に1次不等式を活用することができる。 集合の包含関係、部分集合、共通部分と和集合、全体集合、補集合、空集合、ド・モルガンの法則などについて理解する。また、集合に関する記号の意味を理解し、適切に用いることができる。	生徒が式や図・資料を参考としながら、自らの考えを発表し、議論する。	論理部分では、国語科との連携を図ることができる。
7月	2章 集合と論証 2節 命題と論証 1節 命題と条件 2節 論証	8 ① 知識・技能 命題と条件、必要条件、十分条件、必要十分条件の用語の定義を理解している。 ド・モルガンの法則について理解し、適切に用いることができる。 命題の逆、裏、待遇の意味を理解し、それらの命題と元の命題の真偽の関係について理解している。 ② 思考・判断・表現 条件や命題の真偽について、それらを集合の包含関係と関連付け、図表示による表現を用いて考察することができる。 対偶や背理法を利用した証明の過程を適切に表現することができる。 対偶や背理法を利用した証明の仕方について考察することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 条件や命題の真偽について、それらを集合の包含関係と関連付け、図表示による表現を用いて考えようとしている。 対偶や背理法を利用した証明の仕方について考えようとしている。	定期考査 提出物 ワークシート 定期考査 提出物 ワークシート 定期考査 提出物 振り返りシート	命題と条件、必要条件、十分条件、必要十分条件の用語の定義を学び、その概念を図表示による包含関係と関連付けて理解する。 命題の逆、裏、対偶を理解する。また、対偶を利用した証明法や背理法による証明法を習得するとともに論理的な思考力を高める。	生徒が式や図・資料を参考としながら、自らの考えを発表し、議論する。	論理部分では、国語科との連携を図ることができる。
9月	3章 二次関数 1節 二次関数とそのグラフ 1節 二次関数 2節 二次関数の最大・最小	11 ① 知識・技能 2次関数の意味や関数の値の表し方、及び2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解し、2次関数の式を平方完成するなどして、グラフをかくことができる。 関数の定義域・値域の意味を理解し、1次関数や2次関数のグラフを用いて最大値、最小値を求めることができる。 ② 思考・判断・表現 2つの2次関数のグラフの位置関係について考察することができる。 2次関数のグラフを利用して、定義域に応じた値域、最大・最小を論理的に考察したり、具体的な問題の解決に活用したりすることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 2つの2次関数のグラフの位置関係について考えようとしている。 2次関数のグラフを利用して、定義域に応じた値域、最大・最小を考えようとしている。	定期考査 提出物 ワークシート 定期考査 提出物 ワークシート 定期考査 提出物 振り返りシート	2次関数の意味や関数の基本的な用語について理解し、関数を表す記号 $y=f(x)$ を使うことができる。さらに、2次関数のグラフの特徴を理解し、2次関数 $y=ax^2+bx+c$ を $y=a(x-p)^2+q$ の形に変形して軸と頂点を求め、そのグラフをかくことができる。 2次関数の最大・最小について理解を深め、グラフを利用して、定義域に応じて最大値や最小値を求めることができる。また、具体的な問題の解決に活用することができる。	生徒が式や図・資料を参考としながら、自らの考えを発表し、議論する。	

10月	3章 2次関数 1節 2次関数とそのグラフ 3節 2次関数の決定 2節 2次方程式と2次不等式 1節 2次関数のグラフとx軸の共有点 2節 2次関数のグラフとx軸の共有点の個数	11 ① 知識・技能 2次関数を決定するための条件について基礎的な知識を身に付け、グラフに関する条件から2次関数を決定することができる。 ※例題7～9、問16～18 ・2次方程式の解の求め方を確認し、2次方程式の解を用いて2次関数のグラフとx軸の共有点のx座標を求めることができる。 判別式を用いて、2次方程式の解の個数を調べることができる。 2次関数のグラフとx軸の共有点の個数との関係を、判別式を用いて調べることができる。 ② 思考・判断・表現 2次関数のグラフとx軸の共有点について、2次方程式の実数解と関連させて考察することができる。 2次方程式の実数解の個数に対する判別式の意義や有用性について考察することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 2次関数のグラフとx軸の共有点を、2次方程式の実数解と関連づけて考えようとしている。 判別式を活用して2次方程式の実数解の個数の分析を考えようとしている。	定期考査 提出物 ワークシート 定期考査 提出物 ワークシート 定期考査 提出物 振り返りシート	2次関数のグラフについて与えられた条件から、その2次関数を決定することができる。 2次方程式の解の公式を確認し、2次方程式の解と2次関数のグラフとx軸の共有点との関係を理解する。 2次関数のグラフとx軸の共有点と判別式Dの符号との関係を理解する。さらに、2次方程式の判別式Dを用いて2次関数のグラフとx軸の共有点の個数や位置関係について考察することができる。	生徒が式や図・資料を参考としながら、自らの考えを発表し、議論する。
11月	3章 2次関数 2節 2次方程式と2次不等式 4章 図形と計量 1節 鋭角の三角比 1節 直角三角形と三角比	11 ① 知識・技能 2次不等式の解と2次関数のグラフの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求めることができる。 2次不等式を含む連立不等式の解を求めることができる。 正接、正弦、余弦の意味を理解し、それらを用いて三角形の辺の長さを求めることができる。 ② 思考・判断・表現 2次不等式の解について、グラフとx軸との位置関係と関連させて考察することができる。 2次不等式を利用して具体的な問題について解決することができる。 2次関数を用いて身近な問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすること 図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象を三角比を利用してその問題を解決することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 2次関数のグラフとx軸の共有点の位置関係を活用して2次不等式の解を考えようとしている。 2次関数で学んだことを、具体的な事象の考察に活用しようとしている。 2次関数を活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	定期考査 提出物 ワークシート 定期考査 提出物 ワークシート 定期考査 提出物 振り返りシート	2次関数のグラフとx軸の共有点の位置関係から2次不等式の解の意味を理解し、その解を求めることができる。さらに、2次不等式を含む連立不等式を解いたり、具体的な問題の解決に2次不等式を活用したりすることができる。 三角比としての正接、正弦、余弦の意味を理解して、三角比の表を利用したり、30°、45°、60°の三角比を用いて直角三角形の辺の長さを求めたりすることができる。さらに、三角比を具体的な問題の解決に活用することができる。	生徒が式や図・資料を参考としながら、自らの考えを発表し、議論する。
12月	4章 図形と計量 1節 鋭角の三角比 2節 三角比の相互関係 2節 三角比の拡張 1節 三角比と座標 2 三角比の性質	8 ① 知識・技能 角Aの三角比と角90° - Aの三角比の関係について理解し、1つの三角比を別の角の三角比で表すことができる。 三角比の相互関係を用いて、1つの三角比の値から他の2つの三角比の値を求めることができる。 0°、90°、180°まで拡張した三角比の定義を理解し、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求めることができる。 三角比の値から角θの大きさを求めることができる。 鈍角の場合の三角比の相互関係について理解し、それらを用いて1つの三角比の値から他の2つの三角比の値を求めることができる。 任意の鈍角の三角比を鋭角の三角比で表したり、三角比の表を用いてその値を求めたりすることができる。 ② 思考・判断・表現 三平方の定理や正接の定義を利用して、三角比の間に成り立つ関係を考察することができる。 点の座標を用いて鋭角の三角比を表現し、それをもとにして鈍角の三角比の定義について考察することができる。 角θの三角比と角180° - θの三角比の関係について考察したり、説明したりすることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 三平方の定理や正接の定義を利用して、三角比の間に成り立つ関係を考えようとしている。 点の座標を用いて鋭角の三角比を表現したり、それをもとにして鈍角の三角比の定義について考えたりしようとしている。 角θの三角比と角180° - θの三角比の関係について考えたり、説明したりしようとしている。	定期考査 提出物 ワークシート 定期考査 提出物 ワークシート 定期考査 提出物 振り返りシート	三角比の相互関係について理解し、1つの三角比の値から他の2つの三角比の値を求めることができる。 鈍角や0°、90°、180°まで拡張した三角比の定義や、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解し、0° ≤ θ ≤ 180°のときの三角比の値から角θの大きさを求めることができる。 鈍角まで拡張した場合の三角比の相互関係について理解を深め、それらを活用することができる。	生徒が式や図・資料を参考としながら、自らの考えを発表し、議論する。 物理の力学・波・電磁気分野で、連携を図ることができる。

1月	4章図形と計量 3節円形への応用 1節正弦定理・余弦定理・面積の公式 2節空間図形の計量	8	① 知識・技能 正弦定理や余弦定理を用いて、外接円の半径を求めたり、既知の辺や角から残りの辺や角の大きさを求めたりすることができる。 三角比を用いた三角形の面積の公式について理解し、条件に応じて余弦定理や三角比の相互関係を用いて三角形の面積を求めることができる。	定期考査 提出物 ワークシート	三角形の辺と角の間の基本的な関係として正弦定理や余弦定理を理解し、それらを活用して外接円の半径や既知の辺や角から残りの辺や角の大きさを求めることができる。また、三角比を用いた三角形の面積の公式について理解し、条件に応じて余弦定理や三角比の相互関係を活用して三角形の面積を求めることができる。 三角比を空間図形の計量に活用することができる。	生徒が式や図・資料を参考としながら、自らの考えを発表し、議論する。	
			② 思考・判断・表現 三角比を用いて三角形の構成要素間の関係を考察したり、それらの関係が一般の三角形においても成り立つことを説明したりすることができる。 三角比を用いて三角形の面積公式を導くことができる。 日常の場面を数学的に捉えて、目的の量を調べるためにはどのような手順で三角比を活用すればよいかを判断し、実際に目的の量を調べることができる。 三角比を空間図形の計量に活用することができる。	定期考査 提出物 ワークシート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 三角比を用いて三角形の構成要素間の関係を考察したり、それらの関係が一般の三角形においても成り立つことを説明したりしようとしている。 三角比を用いて三角形の面積公式を導こうとしている。	定期考査 提出物 振り返りシート			
2月	5章データの分析 1節データの分析 1節データの散らばり 2節データの相関 2節データの分析の応用 1節データの分析を利用した問題解決	11	① 知識・技能 偏差、分散、標準偏差の定義とその意味や特徴を理解し、データをもとにそれらを求めることができる。 散布図及び相関関係の意味を理解している。 具体的なデータをもとに相関係数の定義とその求め方を理解している。 問題解決のプロセスについて理解している。	定期考査 提出物 ワークシート	データの平均値に着目して、データの散らばりの大きさを表すための方法として、偏差、分散、標準偏差を理解し、データをもとにそれらを求めることができる。 散布図及び相関関係について理解する。また、相関関係を1つの数値として表す方法として、相関係数について理解する。 これまでに学んだデータを分析する方法を用いて身の回りの事象をPPDACサイクルに沿って考察・検討するとともに、問題を解決するプロセスについて理解する。	生徒が式や図・資料を参考としながら、自らの考えを発表し、議論する。	資料を整理する部分で、理科の実験データの整理や地理・現代社愛の資料のまとめ部分で連携を図ることができる。
			② 思考・判断・表現 偏差の総和を用いてデータの散らばりの大きさを表す方法の短所を見出し、分散の定義について考察したり、標準偏差を用いることの意義について説明したりすることができる。 標準偏差を用いて複数のデータを比較し、それらの違いを適切に説明することができる。 2つのデータの相関関係について、散布図を用いて考察することができる。 これまでに学んだデータを分析する方法を用いて身の回りの事象をPPDACサイクルに沿って考察したり検討したりすることができる。	定期考査 提出物 ワークシート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 偏差の総和を用いてデータの散らばりの大きさを表す方法の短所を見出し、分散の定義や標準偏差を用いる意義について考察したりしようとしている。 2つのデータの相関関係について、散布図を用いて考えようとしている。 具体的な問題解決の場面において、PPDACサイクルを活用したり、その過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	定期考査 提出物 振り返りシート			
3月	5章データの分析 3節仮説検定の考え方 1節仮説検定の考え方	7	① 知識・技能 具体的な事象において仮説検定の考え方を理解している。	定期考査 提出物 ワークシート	具体的な事象において仮説検定の考え方を理解するとともに、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりすることができる。	生徒が式や図・資料を参考としながら、自らの考えを発表し、議論する。	資料を整理する部分で、理科の実験データの整理や地理・現代社愛の資料のまとめ部分で連携を図ることができる。
			② 思考・判断・表現 不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりすることができる。	定期考査 提出物 ワークシート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 不確実な事象の起こりやすさに着目し、首長の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりしようとしている。	定期考査 提出物 振り返りシート			
指導時間数の計		105					

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。(知識及び技能) ○数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。(思考力、判断力、表現力等)□ ○数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。(学びに向かう力、人間性等)
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
数学B	2	全日制・普通科・1学年	Standard 数学A(東京書籍)

科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
-------	--

時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 <単元・題材の評価規準>	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 2～4週 6日	1章 場合の数と確率 1節 場合の数 2節 確率とその基本性質 3節 いろいろな確率	36	① 知識・技能 ・集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則などの数え上げの原則について理解している。 ・具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し、順列の総数や組合せの総数を求めることができる。 ・確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率や期待値を求めることができる。 ・独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求めることができる。 ・条件付き確率の意味を理解し、簡単な場合について条件付き確率を求めることができる。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等	○図表示などを用いて、有限集合の和集合や補集合の要素の個数を求める。樹形図や和の法則、積の法則を用いて、場合の数を求める。 ○順列の意味を理解し、その総数 nPr や階乗を求める。また、円順列や重複順列など、いろいろな順列の総数を求める。 ○組合せの意味を理解し、その総数 nCr を、順列との関係によって求める。また、組合せの考えを用いて、組分けの数や同じものを含む順列の総数を求める。	場合の数と確率の問題演習の際に、生徒たちによる話し合い活動を行い、自分の考えを説明させる。また、他の人と解法の比較を行い各自の考察を深める。	
5月 2、4週 4日			② 思考・判断・表現 ・事象の構造などに着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。 ・確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察することができる。 ・確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりすることができる。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等	○試行と事象、根元事象などの定義と事象の確率の求め方を理解する。積事象・和事象、排反事象、確率の基本性質、確率の加法定理、和事象の確率、余事象とその確率について理解し、これらを用いて確率を求める。 ○独立な試行の確率、反復試行の確率について理解し、これを用いて確率を求める。 ○条件付き確率の意味と確率の乗法定理を理解する。 ○期待値について理解し、期待値を求めたり、期待値を意思決定に利用したりすることができる。		
6月 1～3週 6日			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・事象を場合の数と確率の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等	○線分の内分と外分、三角形の角の二等分線と比に関する定理を理解し、それらを用いて線分の長さを求める。 ○三角形の重心・外心・内心の存在とその証明について理解する。 ○チェバの定理、メネラウスの定理を理解し、それを活用していろいろな辺の長さや比を求めることができる。 ○円に内接する四角形の性質と四角形が円に内接する条件について理解する。 ○円の接線の長さに関する定理を理解し、それを用いて線分の長さを求める。 ○接線と弦のつくる角の定理を理解し、それを用いて角の大きさを求める。 ○方べきの定理が成り立つことを理解するとともに、それを用いて線分の長さを求める。 ○空間における2直線・2平面の位置関係やなす角、及び平面の決定条件などについて理解する。 ○空間における直線と平面の位置関係が垂直である場合について考察する。 ○多面体や正多面体について理解し、正多面体の頂点の数と辺の数と面の数について考察する。		
7月 2～3週 4日							
9月 1～4週 8日	2章 図形の性質 1節 三角形の性質 2節 円の性質 3節 空間図形	34	① 知識・技能 ・三角形に関する基本的な性質について理解している。 ・円に関する基本的な性質について理解している。 ・空間図形に関する基本的な性質について理解している。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等	○方べきの定理が成り立つことを理解するとともに、それを用いて線分の長さを求める。 ○空間における2直線・2平面の位置関係やなす角、及び平面の決定条件などについて理解する。 ○空間における直線と平面の位置関係が垂直である場合について考察する。 ○多面体や正多面体について理解し、正多面体の頂点の数と辺の数と面の数について考察する。		
10月 1、3、4週 8日			② 思考・判断・表現 ・図形の構成要素間の関係や既に学んだ図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 ・コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統合的・発展的に考察することができる。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等			
11月 1～4週 8日			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・事象を図形の性質の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等			
12月 1～3週 6日							
1月 2～4週 6日							
2月 1～4週 8日							
3月 1～3週 6日							
指導時間数の計		70					

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 ○観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ○物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
-------	--

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
物理基礎	2	全日制・普通科・1学年	104 改訂版 物理基礎 (数研出版)

科目の目標	物理や物理現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物理や物理現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。
-------	---

時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 1.速度	2	① 知識・技能 ・物体の速さの式を理解している。 ・等速直線運動の式およびx-t図、v-t図を理解できている。 ・物体の運動を表すには向きが必要であり、速さと速度、移動距離と変位の違いを理解している。 ・平均の速度と瞬間の速度の違いを理解している。 ・直線上の合成速度、相対速度の意味と求め方を理解している。 ② 思考・判断・表現 ・等速直線運動する物体の運動のようすについて説明できる。 ・動く観測者から見た場合の、観測者と同一直線上を動く物体の運動のようすを説明できる。 ・速度の意味・表し方、またこれらはグラフ上ではどのように示されるかを正しく理解し、それをもとに物体の運動のようすを考察することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・日常の運動から、速さ、時間、進む距離についての関係に興味をもち、速さと速度の違いや、相対速度の意味や使い方を理解しようとしている。	p.13 問1, 2 p.14 問3 p.15 問4, 5 p.16 問6 p.17 問7, 8 p.18 問10 p.22 問13 p.23 ドリル p.52 演習問題2, 3	速度が向きをもった量であることを理解させる。 平均の速度を求められるようにし、瞬間の速度はきわめて短い時間の平均の速度であることをx-t図を用いて理解させる。 動いている物体から見た他の物体の速度が相対速度であることを示し、相対速度の式を理解させる。	実験・発表	保健体育「陸上競技」
4月	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 2.加速度	2	① 知識・技能 ・加速度の定義や正負の意味を正しく理解している。 ・等加速度直線運動を表す3つの式がどのようにして得られたかを理解し、その式やグラフを正しく運用することができる。 ・斜面上を降下する台車の運動を記録タイマーで調べ、得られた結果からグラフを作成し、加速度を求めることができる。 ② 思考・判断・表現 ・等加速度直線運動する物体のようすについて説明できる。 ・加速度の意味・表し方、またこれらはグラフ上ではどのように示されるかを正しく理解し、それをもとに物体の運動のようすを考察することができる。 ・斜面上を降下する台車の運動を記録タイマーで調べ、加速度が一定であることを考察することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・p.25図14のように、スタート直後の速さの比較によって、加速度を学ぶ意味を理解しようとしている。 ・斜面上を降下する台車の運動を調べる実験に主体的に取り組んでいる。	p.25 問14, 15 p.26 問16 p.27 ドリル p.31 問17, 18 p.33 類題2 p.34 類題3 p.36 ドリル p.52 演習問題5 p.53 演習問題6 p.28 実験1 p.52 演習問題4	直線運動における加速度の定義を理解させる。その際、運動が同じでも数直線の正の向き取り方により加速度の正、負が決められることを理解させる。	実験・発表	保健体育「陸上競技」
4月	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 3.落体の運動	3	① 知識・技能 ・自由落下や鉛直投射において、与えられた時刻における高さや速度を与える式の運用ができる。 ・自由落下や鉛直投射はいずれも等加速度直線運動の一種であることを理解している。 ・水平投射は鉛直方向には自由落下、水平方向には等速直線運動をしていることを理解している。 ・記録タイマーを正しく用いて、重力加速度の大きさを測定し、9.8m/s ² 前後の値になることを確認することができる。 ② 思考・判断・表現 ・自由落下する物体のようすについて説明できる。 ・重力加速度の意味を正しく理解し、落下する物体の運動のようすを考察することができる。 ・重力加速度の大きさを測定し、文献などで調べた値と比較し、文献値と測定値の間に生じた誤差の原因について考えることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・日常の運動から、落下する物体の運動に興味をもち、自由落下する物体の運動、鉛直投射された物体の運動の表し方を理解しようとしている。 ・重力加速度の大きさを測定する実験に主体的に取り組んでいる。	p.39 問19 p.41 問20, 21 p.43 問22, 23 p.43 類題4 p.44 ドリル p.46 問24 p.53 演習問題7, 8 p.40 実験2	水平投射は、水平方向の等速直線運動と、鉛直方向の自由落下とに分解して扱えることを理解させる。	実験・発表	
5月	第1編 運動とエネルギー 第2章 運動の法則 1.力とそのはたらき	3	① 知識・技能 ・重力、垂直抗力、摩擦力、糸が引く力、弾性力について、理解できている。 ② 思考・判断・表現 ・フックの法則とばね定数の意味を理解し、グラフからばね定数を読み取ることができる。 ・重力の大きさは物体の質量と重力加速度の大きさとの積であり、運動の状態によらないことを説明できる。 ・力の表し方を理解し、「IN」はどのような力か説明できる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・見ること、触ることができない「力」に対して、どのようにして力の存在がわかるのか、また力にはどのような種類があるのかについて考えようとしている。	p.55 問25 p.57 問26	力は、物体の変形や運動状態の変化の原因となるものであり、向きと大きさをもったベクトル量であることを理解させる。 物体が面と接しているときには、面から垂直抗力や摩擦力がはたらくことを理解させる。 弾性力についてはフックの法則とその式を扱い、特にばね定数の意味について理解させる。	実験・発表	
5月	第1編 運動とエネルギー 第2章 運動の法則 2.力のつりあい	3	① 知識・技能 ・力がベクトル量であることを認識し、力の合成や分解ができる。 ・注目する物体にはたらく力が指摘でき、つりあいの式が立てられる。 ・作用・反作用の2力とつりあいの2力を区別して考えることができる。 ・3つの力がはたらいつりあうときの力の関係を確認でき、理解できている。 ・ばねにつながれた棒が取りつけられた台車を用いて、作用反作用を確認できる。 ② 思考・判断・表現 ・作用・反作用の2力とつりあいの2力の違いを理解し、力のつりあいの式を考えたり、それぞれの2力の間の関係について説明できる。	p.59 問28, 29, 30, 31 p.63 類題7 p.64 類題8 p.66 問32 p.67 問A p.68 ドリル p.94 演習問題1 p.63 実験4 p.65 実験5	力はベクトル量であり、合成や分解ができることを理解させる。	実験・発表	

			<p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・力が合成・分解して表されることに興味をもち、「力がつりあう」とはどういうことを理解しようとしている。 ・「作用・反作用」と「つりあい」の2力との違いについて、考えようとしている。 ・力のつりあいや作用反作用の法則を確かめる実験に主体的に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発問 (p.58 冒頭の問いかけなど) に対する生徒のようすを観察する。 ・p.66 学んだことを説明してみよう について生徒どうしに話しあわせ、生徒のようすを観察する。 ・実験 (p.63 実験4, p.65 実験5) に取り組む生徒のようすを観察する。 		
f	第1編 運動とエネルギー 第2章運動の法則 3.運動の法則	3	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物体が力を受けるとき(あるいは受けないとき)、運動状態はどのようになるか、逆に、物体の運動状態からどのような力がはたらいているかを指摘できる。 ・さまざまな運動をしている物体について、運動方程式を立てて考えることができる。 ・力学台車に力を加えるとき、どのような運動となるかを実験で調べることができ、データにまとめることができる。 <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慣性の法則、運動方程式が理解でき、問題解決にあたって式の運用が正しくできる。 ・運動方程式を用いて、物体の運動を説明できる。 ・力学台車に力を加えるときの運動を実験で調べ、引く力の大きさと加速度の大きさ、台車の質量の間にある関係について考えることができる。 <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物体の運動状態は、受ける力とどのような関係にあるかについて興味・関心をもち、理解しようとしている。 ・力学台車に力を加えるときの運動を調べる実験に主体的に取り組んでいる。 	<p>p.71 問34 p.75 問35, 36, 37 p.76 類題9 p.77 類題10 p.78 類題11 p.79 類題12 p.80 類題13 p.81 類題14 p.94 演習問題2, 3 p.71 実験6</p> <p>p.75 問38 p.81 学んだことを説明してみよう p.95 演習問題6 (2)</p> <p>・p.81 学んだことを説明してみよう について生徒どうしに話しあわせ、生徒のようすを観察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験 (p.71 実験6) に取り組む生徒のようすを観察する。 	<p>慣性の法則では、物体にはたらく力の合力が0であるとき、物体は等速直線運動(または静止)をし続けることを理解させる。</p> <p>運動方程式では、物体は力を受けると加速すること、また、生じる加速度の大きさは質量に反比例し、力の大きさに比例することを、実験をもとにして理解させる。</p> <p>1Nがどのように定義されたかを理解させる。</p> <p>物体は落下するとき加速度(重力加速度)を生じることから、運動方程式により、重力がはたらいていることがわかること、および、重力の大きさ、すなわち重さがmg[N]であることを理解させる。</p>	実験・発表
6月	第1編 運動とエネルギー 第2章運動の法則 4.摩擦を受ける運動	3	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注目する物体に摩擦力はどの向きに現れるか、また最大摩擦力の大きさは2物体間の面の状態を表す静止摩擦係数μと、垂直抗力Nとの積で表されることを理解している。 ・静止摩擦係数を用いた力のつりあいの式を立てたり、動摩擦係数を用いた運動方程式を立てることができる。 ・静止摩擦係数がどのような量によって決まるのかを実験で調べられる。 <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・摩擦力がどのような力かを理解し、運動を妨げる向きにはたらく運動について考えることができる。 ・物体にはたらく摩擦係数について説明できる。 <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・摩擦がないときと比較するなどして、どのようなときに静止摩擦係数や動摩擦係数が現れるか、またそのときの物体の運動について、興味・関心をもち考えようとしている。 ・静止摩擦係数を調べる実験に主体的に取り組んでいる。 	<p>p.83 問39, 40 p.85 問41, 類題15 p.9 5 演習問題4, 5 p.84 実験7</p> <p>p.86 思考学習 p.86 学んだことを説明してみよう</p> <p>・p.86 学んだことを説明してみよう について生徒どうしに話しあわせ、生徒のようすを観察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験 (p.84 実験7) に取り組む生徒のようすを観察する。 	<p>どのようなときに静止摩擦係数が生じるのか、また最大摩擦力の大きさが面の状態を表す静止摩擦係数と垂直抗力の積で表されることを理解させる。</p> <p>動摩擦係数の大きさにしても動摩擦係数と垂直抗力の積で表されることを理解させる。</p>	実験・発表
6月、7月	5.液体や気体から受ける力	3	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圧力を求める式を理解できている。 ・水圧を求める式を理解し、水中にある物体が静止しているとき、物体にはたらく力のつりあいの式を立てることができる。 ・水中にある物体にはどのような浮力がはたらくかを理解している。 ・浮力の大きさを実験で調べられる。 <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水中にある物体には、どのような水圧が加わるか、またどのような浮力がはたらくかを正しく理解し、説明できる。 <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の現象などを通して、水中や空気中で圧力があることに興味を寄せ、それらの圧力はどのようにしてはかることができるか、そもそも圧力とは何か、ということを考えようとしている。 ・浮力の大きさを調べる実験に主体的に取り組んでいる。 	<p>p.87 問42 p.89 問43, 44 p.90 問45 p.91 類題16 p.91 実験8</p> <p>p.90 問46 p.93 学んだことを説明してみよう p.95 演習問題6 (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験 (p.91 実験8) に取り組む生徒のようすを観察する。 ・実験のレポートを提出させる。 	<p>液体や気体の中では物体は圧力を受けると、圧力の式とその単位について理解させる。</p> <p>液体や気体中にある物体には浮力がはたらくこと、および、浮力の大きさについてアルキメデスの原理が成り立つことを理解させる。空気中を落下する物体には、空気抵抗がはたらくことを理解させる。</p>	実験・発表
7月	第3章 仕事と力学的エネルギー 1.仕事	3	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事、仕事率を計算して求めることができる。 ・物体に対して力がはたらいていても、仕事が0のときもあり、それがどのようなときであるかを理解している。 ・「仕事の原理」を仕事を計算して求めたものを比較することにより、理解している。 ・仕事率Pは「W/t」だけでなく、「Fv」でも求められることを理解している。 <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物体に対して力がはたらいていても、仕事が0のときもあり、それがどのようなときであるかを説明できる。 ・「仕事の原理」を理解し、道具を用いたときに必要な仕事はどうなるかを説明できる。 <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常用いる「仕事」と物理で使う「仕事」の違いを理解し、物理でいうところの「仕事」について理解しようとしている。 	<p>p.97 問47 p.98 問48 p.100 問49 p.101 問50 p.120 演習問題1</p> <p>p.101 学んだことを説明してみよう</p> <p>・p.101 学んだことを説明してみよう について生徒どうしに話しあわせ、生徒のようすを観察する。</p>	<p>物体の移動方向に垂直にはたらく力は仕事をしないこと、移動の向きと力の向きが逆のときは仕事は負になること、および、正・負の仕事の意味について具体的に理解させる。</p> <p>$F-x$図の面積が仕事の大きさを表すことを理解させる。仕事の原理では、てこや動滑車の演示実験などを用いて、加える力の大きさが小さくなくても必要な仕事が一一定であることを理解させる。単位時間にした仕事の仕事率であることを理解させる。</p>	実験・発表
7月	2.運動エネルギー	2	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動エネルギーが$1/2 \times mv^2$であることを理解している。 ・運動エネルギーの変化は物体にされた仕事に等しいことを理解している。 <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動エネルギーがどのようなものかを理解し、説明できる。 ・運動エネルギーの変化は物体にされた仕事に等しいことを用いて、物体の運動を説明できる。 <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動している物体は、どのようなエネルギーをもっているかについて興味をもち、考えようとしている。 	<p>p.103 問51 p.104 問52</p> <p>p.104 学んだことを説明してみよう p.120 演習問題4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発問 (p.102 冒頭の問いかけなど) に対する生徒のようすを観察する。 	<p>物体の運動エネルギーの変化が物体にされた仕事に等しいこと、および、この関係が導かれる過程を理解させる。特にp.104(70)式の右辺の仕事は、力の種類(保存力、非保存力の種類)を問わないことを理解させる。</p>	実験・発表
7月、9月	3.位置エネルギー	3	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重力による位置エネルギーを計算することができる。 ・弾性力による位置エネルギーを計算することができる。 ・物体が基準点まで移動するとき保存力がする仕事が、位置エネルギーであることを確認できる。 ・重力による位置エネルギーを実験で調べることで、定性的に確認できる。 <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・状態が異なる場合の位置エネルギーを、比較して考えることができる。 ・重力による位置エネルギー、弾性力による位置エネルギーについて説明することができる。 <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・位置エネルギーは、運動エネルギーのように動きがあり目立つものではないが、仕事をする能力を「秘めて」いることに興味をもち、理解しようとしている。 ・重力による位置エネルギーを調べる実験に主体的に取り組んでいる。 	<p>p.106 問53 p.107 問54 p.108 問56 p.106 実験9</p> <p>p.107 問55 p.108 学んだことを説明してみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発問 (p.105 冒頭の問いかけなど) に対する生徒のようすを観察する。 ・実験 (p.106 実験9) に取り組む生徒のようすを観察する。 ・実験のレポートを提出させる。 	<p>高い所にある物体は重力による位置エネルギーをもっていることを理解させる。</p> <p>重力による位置エネルギーがmgh[J]であることを理解させる。</p> <p>弾性力による位置エネルギーについては、$1/2 \times kx^2$の式で表される過程を理解させる保存力の説明の中で、基準点から考えている点まで物体を移動させるために必要な仕事、移動経路が異なっても変わらないことから、考えている点での位置エネルギーが定義されることを理解させる。</p>	実験・発表
			<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな物体の運動について、力学的エネルギー保存則を用いることができる。 ・物体に保存力以外の力がはたらくとき、その仕事の量だけ物体の力学的エネルギーは変化することを理解している。 ・力学的エネルギー保存則が成り立つための条件が整っているかどうかを判断できる(→保存力以外の力が物体に対して仕事をしない)。 ・力学的エネルギー保存則を定性的に検証できている。 ・振り子と速さ測定器を用いて、力学的エネルギー保存則を定量的に検証できている。 	<p>p.112 類題17 p.113 類題18 p.114 類題19 p.115 類題20 p.119 問A p.120 演習問題2, 3 p.111 実験10 p.115 実験11</p>	<p>重力だけが仕事をするとき力学的エネルギー保存則が成り立っていることを理解させる。</p> <p>一般に、力学的エネルギー保存則は、物体にはたらく力が保存力だけのとき、あるいは保存力以外の力がはたらいていてもその力が物体に対して仕事をしないときに成り立つことを理解させる。逆に、物体に保存力以外の力がはたらくときに</p>	

9月	4.力学的エネルギーの保存	3	<p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・力学的エネルギー保存則を用いて、物体の運動を定性的に考えることができる。 ・力学的エネルギー保存則を用いて、運動する物体のもつ運動エネルギー、位置エネルギー、力学的エネルギーの変化のようすを説明することができる。 ・実験から得られた結果と力学的エネルギー保存則から理論的に求めた値を比較して考えることができる。 <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・力学的エネルギー保存則について興味関心を持ち、理解しようとしている。 ・力学的エネルギー保存則の実験に主体的に取り組んでいる。 	<p>p.111 問57</p> <p>p.117 学んだことを説明してみよう</p> <p>p.115 実験11</p> <p>・授業中の発問(p.109冒頭の問いかけなど)に対する生徒のようすを観察する。</p> <p>・実験(p.111 実験10, p.115 実験11)に取り組む生徒のようすを観察する。</p>	<p>は、その仕事だけ力学的エネルギーが変化することを理解させる。</p>	実験・発表	
9月	第2編 熱 第1章 熱とエネルギー 第1節 熱と物質の状態	3	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温度、熱運動、熱量、比熱、熱容量などが正しく理解されている。 ・熱量の保存について理解し、熱量保存の式を立てることができる。 ・物質が、固体→液体、液体→気体になる際の、熱のやりとりについて理解している。 ・顕微鏡を用いてブラウン運動の観察ができる。 <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な事象を、学習内容に照らし合わせて説明できる。 ・温度や熱容量、比熱はどのような物理量か、自分の言葉で説明できる。 ・水の状態図から情報を読み取り、日常的な事象について理由などを推測し、説明することができる。 <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものの温まりやすさなど、熱にかかわる現象について興味関心を持ち、理解しようとしている。 	<p>p.123 問1 p.124 問2</p> <p>p.125 問3 p.127 類題1</p> <p>p.130 問5, 6 p.142 演習1</p> <p>p.122 実験12 p.128 実験13</p> <p>p.122 問4</p> <p>p.129 思考学習</p> <p>p.131 学んだことを説明してみよう</p> <p>p.142 演習問題4</p> <p>・p.131 学んだことを説明してみよう について生徒どうしに話しあわせ、生徒のようすを観察する。</p>	<p>熱運動について理解させる。</p> <p>絶対温度について理解させる。</p> <p>熱がエネルギーの一形態であることを理解させる。</p> <p>外部との熱のやりとりがない場合、熱量が保存されることを理解させる。</p> <p>物質には、固体、液体、気体の3つの状態が存在し、いずれの状態でも熱運動があることを理解させる。また、多くの場合、温度が上がると物体の体積が大きくなることを理解させる。</p>	実験・発表	家庭科
10月	第2節 熱と仕事	4	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事と熱の関係や熱力学第一法則について理解している。 ・熱機関と熱機関の効率について理解している。 ・仕事によって温度が上昇することを、実験で確認できる。 <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な現象を熱と仕事の関係を踏まえて説明できる。 ・不可逆変化とはどのような変化かを説明できる。 <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱と仕事の関係について興味関心を持ち、理解しようとしている。 ・熱と仕事の実験に主体的に取り組んでいる。 	<p>p.134 問7</p> <p>p.141 問8</p> <p>p.142 演習問題2, 3</p> <p>p.133 実験14</p> <p>p.141 学んだことを説明してみよう</p> <p>・p.141 学んだことを説明してみよう について生徒どうしに話しあわせ、生徒のようすを観察する。</p> <p>・実験(p.133 実験14)に取り組む生徒のようすを観察する。</p>	<p>熱がエネルギーの一形態であることを理解させる。</p> <p>気体の内部エネルギーは、温度が高いほど、また分子の数が多くなるほど大きくなることを理解させる。</p> <p>物体の内部エネルギーを変化させる方法は熱することと仕事をすることであること(熱力学第一法則)を理解させる。</p> <p>熱機関の効率について理解させる。</p>	実験・発表	
10月	第3編 波 第1章 波の性質 第1節 波と媒質の運動	3	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・波の発生原理や基本事項を理解している。 ・縦波と横波の違いを理解している。 ・縦波を横波の形で表現できている。 ・縦波と横波の違いについて認識して、波を発生させることができる。 <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・波の伝わるようすを、グラフで表現することができる。 ・波の基本事項について説明できる。 ・与えられた情報を正しく読み取り、問いに答えられている。 <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な波の現象に興味を持ち、波の発生原理や基本事項について理解しようとしている。 ・横波と縦波の実験に主体的に取り組んでいる。 	<p>p.146 問1 p.148 問3 p.149 問4, 5 p.150 問6 p.151 問7</p> <p>p.154 問8, 類題1 p.155 類題2</p> <p>p.156 問9 p.158 類題3</p> <p>p.173 演習問題1, 2</p> <p>p.158 実験15</p> <p>p.147 問2 p.152~153 ドリル</p> <p>p.159 学んだことを説明してみよう</p> <p>p.173 演習問題4</p> <p>・実験(p.158 実験15)に取り組む生徒のようすを観察する。</p> <p>・実験のレポートを提出させる。</p>	<p>波動とは、媒質の1点に起こった振動が、媒質中を少しずつ遅れて伝わっていく現象であることを理解させる。</p> <p>単振動の伝搬による波が正弦波であることを理解させる。</p> <p>同位相、逆位相についても理解させる。</p> <p>横波、縦波を理解させる。</p>	実験・発表	数学「二次関数」
11月	第2節 波の伝わり方	3	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定在波の生じるしくみを理解している。 ・ウェーブマシンの実験・観察を通して、波の重ねあわせの原理や自由端・固定端での波の反射について理解している。 <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定在波を発生させる条件を正しく理解し、説明できる。 ・固定端と自由端での波の反射について、その違いを明確に説明できる。 <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・波が衝突や反射するときのようになるか、興味を持って、自分の考えを述べるができる。 	<p>p.161 問10 p.162 問11</p> <p>p.164 問12 p.165 類題4</p> <p>p.173 演習問題3</p> <p>・「学んだことを説明してみよう」(p.172)に答えさせる。</p> <p>・p.172 学んだことを説明してみよう について生徒どうしに話しあわせ、生徒のようすを観察する。</p>	<p>変位は、2つの波が単独に達したときの変位の和であることを理解させる。</p> <p>定在波の媒質は、場所によって振幅が異なることを理解させる。</p> <p>ウェーブマシンにパルスを送ったとき、自由端では位相は変わらず、山の入射波は山として反射されるが、固定端では位相が半波長ずれて、山は谷として反射されることを理解させる。</p>	実験・発表	数学「三角関数」
11月	第2章 音 第1節 音の性質	2	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活での体験を通して、音の波としての性質を理解している。 ・うなりについて、音の干渉の知識を用いて定量的に扱うことができる。 ・音の波の形を音の波の図を用いて観察できる。 <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音を伝える際、空気などの媒質が必要であることを説明できる。 ・音の特徴づける3つの要素について説明できる。 ・うなりとはどのような現象であるかを説明できる。 <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音に関する身近な問いかけについて、自分の考えを述べることができる。 ・身近な音の現象に興味を持ち、基本事項について理解しようとしている。 ・音の波形の観察について、主体的に取り組んでいる。 	<p>p.176 問17, 18</p> <p>p.179 問19</p> <p>p.175 実験16</p> <p>p.174 問16</p> <p>p.179 学んだことを説明してみよう</p> <p>・p.179 学んだことを説明してみよう について生徒どうしに話しあわせ、生徒のようすを観察する。</p> <p>・実験(p.175 実験16)に取り組む生徒のようすを観察する。</p> <p>・実験のレポートを提出させる。</p>	<p>空気中を伝わる音の速さは、温度により異なる。p.176(9)式から、温度が高いほど音の速さは速くなる。うなりの現象を実験によって観察させ、その理由を理解させる。</p>	実験・発表	音楽
11月	第2節 発音体の振動と共振・共鳴	3	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弦や気柱の振動と音の高さの関係について理解している。 ・気柱の振動の際、管内に生じる定在波の腹は管口より外にできることを理解している。 ・モノコードにより弦の振動と音階の関係を確認でき、理解できている。 ・試験管を使って、気柱の振動と音階の関係を確認でき、理解できている。 ・気柱共鳴装置を用い、気柱の共鳴音からおんさの振動数を求めることができ、理解できている。 ・糸の長さを何種類かに変えた振り子で振り子の共振を観察することで、振り子の性質を理解できている。 <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弦楽器の音にはどのようなことが関係しているかを、これまでの学習内容を踏まえて考えることができる。 ・倍音とはどのような振動数の音であるかを説明できる。 ・気温と管楽器からの音の振動数にはどのような関係があるかを考察し、説明できる。 <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弦楽器や管楽器について、どのようにして音の高さを変えているかについて、自分の考えを述べるができる。 ・音に関する問いかけについて、自分の言葉で表そうとしている。 ・弦や気柱の振動の実験や、振り子の共振の実験において、主体的に取り組んでいる。 	<p>p.182 問20, 類題7 p.184 問22</p> <p>p.185 問23 p.185 問24</p> <p>p.187 類題8 p.188 問25</p> <p>p.192 演習問題1~3</p> <p>p.181 実験17 p.183 実験18</p> <p>p.186 実験19 p.189 実験20</p> <p>p.190 思考学習</p> <p>p.191 学んだことを説明してみよう</p> <p>p.192 演習問題4</p> <p>・p.191 学んだことを説明してみよう について生徒どうしに話しあわせ、生徒のようすを観察する。</p> <p>・実験(p.181 実験17, p.183 実験18, p.186 実験19, p.189 実験20)に取り組む生徒のようすを観察する。</p>	<p>弦の振動は、定在波であることを理解させる。</p> <p>振動体にその固有振動の周期と等しい周期で変化する外力を加えると、振動体は大きく振動するようになる(共振・共鳴)ことを理解させる。</p>	実験・発表	音楽
12月	第4編 電気 第1章 物質と電気 第1節 電気の性質	2	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物体の帯電するしくみについて理解している。 ・導体・不導体、半導体の違いについて理解している。 <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガラス棒を絹などでこすった際に、それぞれどのような帯電状態になるかを説明できる。 <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な静電気現象について、なぜそうなるかを述べることができる。 	<p>p.196 問1</p> <p>授業プリントなど</p> <p>p.198 学んだことを説明してみよう</p> <p>・p.198 学んだことを説明してみよう について生徒どうしに話しあわせ、生徒のようすを観察する。</p>	<p>。物体が帯電するしくみでは、帯電は電子の過不足から生じ、電気現象は電子が主役であることを認識させる。</p>	実験・発表	

12月	第2節 電流と電気抵抗	2	① 知識・技能 ・電流と電圧の基礎について理解している。 ・オームの法則、抵抗の接続、抵抗率の基礎について理解している。 ・オームの法則を実験により定量的に検証できる。また、実験から、物体の長さや断面積と抵抗値の関係について理解している。	p.199 問2 p.200 問3 p.201 問4 p.203 問6 p.204 類題1 p.207 問8 p.211 ドリル p.217 演習問題1, 2 p.205 実験21 p.206 実験22	電流の向きと大きさについてしっかりと理解させる。また、電圧・電流・電気抵抗の間には、オームの法則が成り立つことも理解させる。 抵抗率についても指導する。 抵抗の接続においては、直列・並列接続の特徴を理解させる	実験・発表
			② 思考・判断・表現 ・オームの法則を理解し、I-Vグラフより、金属の抵抗値を求めることができる。 ・家庭にきている電気の電圧・電流の値から、使用できる電気器具の数の上限を類推することができる。 ・金属の抵抗率が小さいほど電気をロスなく通しやすく、大きいほど熱として消費しやすいことを理解している。 ・ダイオードの電流-電圧グラフから、さまざまな状況の抵抗値を類推できる。 ・電気回路における、接続ごとの電流、電圧の大きさについて適切に理解しており、説明できる。 ・導体の抵抗値は、形状とどのような関係があるかを説明できる。 ・家庭内電源が、並列接続である理由を考察できる。	p.201 問5 p.203 問7 p.208 問9 p.209 思考学習 p.209 学んだことを説明してみよう p.217 演習問題4(1)		
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・電気回路の抵抗の接続のしかたを変えたとき、抵抗に加わる電圧と流れる電流の値がどのようなかについて、主体的に考えることができる。 ・オームの法則の検証実験や物体の抵抗率の測定（長さ・面積・材質の違いによる抵抗値の測定）の実験において、主体的に取り組んでいる。	・実験(p.205 実験21, p.206 実験22)に取り組む生徒のようすを観察する。 ・実験のレポートを提出させる。		
12月	第3節 電気とエネルギー	3	① 知識・技能 ・ジュールの法則について理解している。 ・電力量と電力の意味（およびその公式）について理解している。 ・断熱容器中で水をジュール熱によって温め、ジュールの法則	p.214 問11 p.215 問12 p.217 演習問題3 p.216 実験23	導体の両端に電圧を加えると、導体の温度が上がることを理解させる。 その際に発生する熱をジュール熱とよぶこと、および、発熱量が電流と電圧と時間の積で表されることを理解させる。電流がする仕事(電力量)WがIVt[J]に等しいことを理解させ、これが発生するジュール熱に等しいこと、および、電流が単位時間にする仕事率(電力)IV[W]について理解させる。	実験・発表
			② 思考・判断・表現 ・ジュール熱について、電流と電圧とどのような関係にあるか説明できる。 ・電圧を一定にしたとき、消費電力と抵抗値は反比例の関係にあることを説明できる。 ・抵抗率、消費電力について理解しており、それをもとに考えることができる。	p.216 学んだことを説明してみよう p.217 演習問題4(2)		
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・日常で使う電気を踏まえて、ジュール熱や電力について、主体的に考えることができる。 ・ジュールの法則の検証実験に主体的に取り組んでいる。	・実験のレポートを提出させる。		
1月	第2章 磁場と交流 第1節 電流と磁場	3	① 知識・技能 ・直線電流、円形電流、ソレノイドのつくる磁場の向きを判断することができる。 ・電磁誘導の基礎を理解している。	p.219 問13 p.229 演習問題1 授業プリントなど	直線電流が周囲につくる磁場、円形電流が円の中心につくる磁場、ソレノイドがその内部につくる磁場の向きについて理解させる。電流が磁場から受ける力について説明し、直線電流の向きと磁場の向きを等しいことを理解させる。コイル内に磁石を出し入れさせたときに、検流計の針が振れる電磁誘導の現象を理解させる。	実験・発表
			② 思考・判断・表現 ・電流と磁場の関係について説明できる。 ・モーターの回る原理について説明できる。 ・身近な電磁誘導の利用例について、説明できる。	p.222 学んだことを説明してみよう p.229 演習問題5		
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・モーターの回転する機構について興味をもち、主体的に原理を考察することができる。 ・電流の流れる向きと磁場の向きの関係について、主体的に考えることができる。	・授業中の発問(p.218 冒頭の問いかけなど)に対する生徒のようすを観察する。 ・p.222 学んだことを説明してみようについて生徒どうしに話しあわせ、生徒のようすを観察する。		
1月、2月	第2節 交流と電磁波	3	① 知識・技能 ・交流電圧の基本について理解している。 ・変圧器と送電の基本について理解している。 ・電磁波の振動数と波長の関係を理解している。また、ラジオ放送やテレビ放送、携帯電話など、身近に使われている電磁波の周波数についても把握している。 ・デジタルカメラなどを利用し、身近な赤外線の実用例に関して、観察することができる。	p.225 問14 p.226 問15 p.227 問16 p.229 演習問題2~4 p.227 実験24	交流の電圧は時間的に変化し、その電圧の波形には最大値や0となる瞬間があることを理解させる。交流発電機のしくみを理解させる。変圧器は交流の電圧を変えていること、および、一次コイルと二次コイルの交流電圧の比は、一次コイルと二次コイルの巻数の比に等しいことを理解させる。電磁波には波の性質をもっていることを理解させる。	実験・発表
			② 思考・判断・表現 ・直流と交流の違いについて理解しており、それを説明することができる。 ・送電における電力損失の理由を理解しており、説明できる。	p.228 学んだことを説明してみよう		
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・直流と交流の違いや送電時の工夫について、主体的に考えることができる。 ・赤外線の観察について、主体的に取り組んでいる。	・実験(p.227 実験24)に取り組む生徒のようすを観察する。 ・実験のレポートを提出させる。		
2月	第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーの利用 第1節 エネルギーの移り変わり	2	① 知識・技能 ・エネルギーにはどのような種類があるか、また、身近なさまざまな事象でどのようなエネルギー変換がなされているかを理解している。 ・手回し発電機を用い、力学的エネルギーを電気エネルギーに変換できる。	p.231 問1 p.231 実験25	あらゆる自然現象におけるエネルギーの変換では、全てのエネルギーの和は一定に保たれることを理解させる。	実験・発表
			② 思考・判断・表現 ・ある事象に対して、どのようなエネルギー変換が行われているかを考察し、説明することができる。	p.231 問2 p.231 学んだことを説明してみよう		
			③ 主体的に学習に取り組む態度 新しいエネルギーである再生可能エネルギーに興味をもち、さまざまな発電方法における共通点を探すと、主体的に取り組むことができる。	p.231 実験25		
2月、3月	第2節 エネルギー資源と発電	2	① 知識・技能 ・エネルギー資源にはどのようなものがあるか把握し、それらの長所と短所を理解している。 ・原子力発電に関連して、原子核の構成などを理解している。 ・身のまわりの放射線量を測定器を用いて測定できる。また、放射性物質についても、放射線量を測り、身のまわりの放射線量とどの程度異なるかを確かめられる。	p.234 問3 授業プリントなど p.236 実験26	原子力発電を理解するために必要な知識である原子核、同位体、核反応、原子炉のしくみなどについて理解させる。	実験・発表
			② 思考・判断・表現 ・再生可能エネルギーについて、枯渇性エネルギーとの違いを考え、説明できる。 ・火力、原子力、水力、風力の発電の共通点について説明できる。	p.242 学んだことを説明してみよう		
			③ 主体的に学習に取り組む態度 新しいエネルギーである再生可能エネルギーに興味をもち、さまざまな発電方法における共通点を探すと、主体的に取り組むことができる。	・p.242 学んだことを説明してみようについて生徒どうしに話しあわせ、生徒のようすを観察する。		
3月	物理学が拓く世界	2	① 知識・技能 物理学基礎で学習してきた内容が、スポーツ、防災、自動車とどのように関連しているかについて理解している。	とりあげた題材について、物理学基礎で学んだどのような内容が関係しているかについて答えさせる。	スポーツ、防災、自動車のような身近な技術を題材に、「物理学基礎」の学習内容との関連を理解させる。また、職業に就いている人の声を紹介し、将来の進路について考える一助となるようにする。	実験・発表
			② 思考・判断・表現 私たちの暮らしを支える技術に、高校で学んだ物理学の知識がどのように活用されているかを説明できる。	私たちの暮らしを支える技術と物理学の結びつきについて調べたことを発表させる。		
			③ 主体的に学習に取り組む態度 スポーツや防災、自動車などの身近な科学技術に、物理学がどのように活用されているかについて興味をもつ。	物理学基礎で学んだ内容が、暮らしの中のどのような技術と関係しているかについて挙げさせる。		
指導時間数の計		70				

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○ 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 ○ 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ○ 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
生物基礎	2	全日制・普通科・1学年	生基701「高校生物基礎」実教出版

科目の目標	○日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ○生物や生物現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できる。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力が育む。 ○生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度を養う。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が養われている。
-------	--

時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月	第1章 生物の特徴 1節 生物の多様性と共通性	9	① 知識・技能 ・生物の共通性と多様性について、すべての生物で細胞が共通の構造であることを理解している。 ・原核細胞と真核細胞の違いについて、それらの細胞に含まれる細胞小器官の違いとともに理解している。 ・試料の採取、染色などを行い、光学顕微鏡で観察する技能を習得している。 ・生物の組織からDNAを抽出する技能を習得している。 ② 思考・判断・表現 ・資料や実験をもとに、生物に共通する性質を見いだし表現することができる。 ・生物が共通性を保ちながら進化し多様化してきたこと、共通性は起源の共有に由来することを説明できる。 ・細胞が生物の基本構造であることを、生物学的な視点から考察することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・様々な生物の比較に基づいて、生物は多様でありながら共通性をもっていることを見いだして理解しようとする。 ・原核細胞と真核細胞について、その細胞に含まれる細胞小器官を基に、違いを理解しようとする。	・生物の共通性と多様性について、すべての生物で細胞が共通の構造であることを理解している。 ・原核細胞と真核細胞の違いについて、それらの細胞に含まれる細胞小器官の違いとともに理解している。 (定期考査) ・試料の採取、染色などを行い、光学顕微鏡で観察する技能を習得している。 ・生物の組織からDNAを抽出する技能を習得している。 (実験評価) ・資料や実験をもとに、生物に共通する性質を見いだし表現することができる。 ・細胞が生物の基本構造であることを、生物学的な視点から考察することができる。 (発問評価・課題提出)	・様々な生物の比較に基づいて、生物は多様でありながら共通性をもっていることを見いだして理解する。 ・生物が共通性を保ちながら進化し多様化してきたこと、共通性は起源の共有に由来することを理解させる。 ・生物に共通する性質は細胞であることを理解させる。また、細胞にも原核細胞と真核細胞があることを細胞の内部構造とともに理解させる。 (実験評価)	実験・発表	
5月3週	2節 細胞とエネルギー	6	① 知識・技能 ・生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成から得ていることを理解している。 ・体内で行われる化学反応は、酵素が触媒していることを理解している。 ② 思考・判断・表現 ・呼吸や光合成からエネルギーを得る方法を、関連づけて考察し、それを表現できる。 ・代謝の反応が行われるときに、酵素がどのように関与しているのかを説明できる。 ・カタラーゼを用いた実験から、酵素の作用と作用する物質の関係について結果を導き出すことができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・資料に基づいて、生命活動にエネルギーが必要であることを理解しようとする。また、呼吸や光合成から得ていることを理解しようとする。 ・体内で行われる化学反応は、酵素が関わっていることを理解しようとする。	・生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成から得ていることを理解している。 ・体内で行われる化学反応は、酵素が触媒していることを理解している。(定期考査) ・呼吸や光合成からエネルギーを得る方法を、関連づけて考察し、それを表現できる。 (発問評価・課題提出) ・カタラーゼを用いた実験から、酵素の作用と作用する物質の関係について結果を導き出すことができる。 (実験評価)	・生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解させる。その際、呼吸と光合成の概要を扱う。 ・代謝の反応が行われるときに、酵素がどのように関与しているのか理解させる。 ・光合成や呼吸がATPを合成する反応であることを理解させる。	実験・発表	化学基礎「物質の変化」
6月2週	第2章 遺伝子とその働き 1節 遺伝情報とDNA	8	① 知識・技能 ・DNAが二重らせん構造であること、そのため、2本鎖の塩基配列は相補的であることを理解している。 ・ゲノム、遺伝子、染色体、DNAの関係を理解している。 ・体細胞分裂が行われる際に、遺伝情報の同一性が保たれることを理解している。 ② 思考・判断・表現 ・資料に基づき、DNAの構造を科学的に見いだすことができる。 ・DNAの複製を塩基配列と関連付けて説明することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・DNAの性質や構造を、DNAの研究史とともに理解しようとする。 ・ゲノムと遺伝子、染色体、DNAの関係について理解しようとする。 ・細胞分裂の際に、DNAの塩基配列が正確に複製されるしくみを見いだし、理解しようとする。	・DNAが二重らせん構造であること、そのため、2本鎖の塩基配列は相補的であることを理解している。 ・ゲノム、遺伝子、染色体、DNAの関係を理解している。 ・体細胞分裂が行われる際に、遺伝情報の同一性が保たれることを理解している。 (定期考査) ・資料に基づき、DNAの構造を科学的に見いだすことができる。 ・DNAの複製を塩基配列と関連付けて説明することができる。 (発問評価・課題提出)	・DNAの構造や性質を、研究史を展開しながら理解させる。 ・DNA、遺伝子、ゲノムの関係性を理解させる。 ・DNAが体細胞分裂の際に、複製され、量とともに均等に分配されることにより遺伝情報が伝えられることを理解させる。 ・DNAの複製・分裂は細胞周期にあわせて行われることを理解させる。	実験・発表	
7月3週	2節 遺伝情報とタンパク質の合成	8	① 知識・技能 ・さまざまな生命現象にはタンパク質が関わっており、それらタンパク質がDNAの遺伝情報に基づいて合成されることを理解している。 ・DNAの塩基配列に基づいて、タンパク質が合成されることを理解している。 ・遺伝子の発現について理解し、細胞ごとに特定の遺伝子が発現することを理解する。 ・試料の採取、染色などを行い、光学顕微鏡で観察する技能を習得している。 ② 思考・判断・表現 ・DNAの遺伝情報に基づいてタンパク質が合成される過程を体系的に考察し、表現できる。 ・DNAからタンパク質が合成される際には、転写・翻訳が行われることを説明できる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・DNAの塩基配列の情報に基づいて、タンパク質が合成されることを理解しようとする。	・DNAの塩基配列に基づいて、タンパク質が合成されることを理解している。 ・遺伝子の発現について理解し、細胞ごとに特定の遺伝子が発現することを理解する。 (定期考査) ・試料の採取、染色などを行い、光学顕微鏡で観察する技能を習得している。 (実験評価) ・DNAの遺伝情報に基づいてタンパク質が合成される過程を体系的に考察し、表現できる。 (発問評価・課題提出)	・さまざまな生命現象にはタンパク質が関わっていることに触れ、それらタンパク質がDNAの遺伝情報に基づいて合成されることを理解させる。 ・DNAからタンパク質が合成される際には、転写・翻訳が行われることを理解させる。 ・すべての遺伝子が細胞内でつねに発現しているわけではないことを理解させる。	実験・発表	

9月	第3章 ヒトのからだの調節 1節 体内環境	7	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 体内環境が一定の範囲に保たれることとその意味を理解している。 腎臓での塩類濃度の調節や、肝臓による物質の合成・分解などのしくみを理解している。 解剖など生体を扱う技能を習得している。 <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 恒常性により、体内環境が保たれていることを考察することができる。 腎臓の働きについて体系的に理解し、ろ過・再吸収のしくみを説明することができる。 <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 外界の環境が変化しても、体内環境は一定の範囲に保たれていることを理解しようとする。 体液を調節することで、体内環境が保たれていることを理解しようとする。 腎臓による塩類濃度調節や、肝臓による物質の合成・分解などのしくみを理解しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 体内環境が一定の範囲に保たれることとその意味を理解している。 腎臓での塩類濃度の調節や、肝臓による物質の合成・分解などのしくみを理解している。 (定期考査) 解剖など生体を扱う技能を習得している。 (実験評価) <ul style="list-style-type: none"> 腎臓の働きについて体系的に理解し、ろ過・再吸収のしくみを説明することができる。 (発問評価・課題提出) <ul style="list-style-type: none"> 外界の環境が変化しても、体内環境は一定の範囲に保たれていることを理解しようとする。 (発問評価・授業態度) 	<ul style="list-style-type: none"> 動物が体内環境をもち、外界からの影響を適切に調節していることを理解させる。 恒常性により、体内環境が保たれていることを理解させる。 体液を調節することで、体内環境が保たれていることを理解させる。 	実験・発表	保健体育「現代社会と健康」
10月3週	2節 体内環境の維持のしくみ	6	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 神経やホルモンの働きにより体内環境が維持されることを理解している。 ホルモンの分泌により血糖濃度が保たれることを理解しており、ホルモンの分泌不足による発症する疾患についての知識を得ている。 実験により得られたデータを比較・分析することにより、結論を導き出すことができる。 <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 体の調節に関する観察、実験などを行い、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだして理解することができる。 血糖濃度調節のしくみを、ホルモンと自律神経系の両方の働きから説明できる。 <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 体内環境の維持とホルモンの働きとの関係を見いだして理解しようとする。 観察、実験に基づいて、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見だし、理解しようとする。 資料に基づいて、ヒトの血糖濃度が調節されるしくみを見だし、理解しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 神経やホルモンの働きにより体内環境が維持されることを理解している。 ホルモンの分泌により血糖濃度が保たれることを理解しており、ホルモンの分泌不足による発症する疾患についての知識を得ている。 (定期考査) 実験により得られたデータを比較・分析することにより、結論を導き出すことができる。 (課題提出・実験評価) <ul style="list-style-type: none"> 体の調節に関する観察、実験などを行い、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだして理解することができる。 血糖濃度調節のしくみを、ホルモンと自律神経系の両方の働きから説明できる。 (発問評価・課題提出) <ul style="list-style-type: none"> 観察、実験に基づいて、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見だし、理解しようとする。 資料に基づいて、ヒトの血糖濃度が調節されるしくみを見だし、理解しようとする。 (発問評価・授業態度) 	<ul style="list-style-type: none"> 体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだして理解させる。 体内環境の調節に、神経系と内分泌系が関わっていることを理解させる。 体内環境の維持とホルモンの働きとの関係を見いだして理解させる。 ヒトの体液濃度の調節が、自律神経とホルモンの作用により一定の範囲に保たれていることを理解させる。 血糖濃度がホルモンと自律神経が関わるしくみで調節されていることについて理解させ、調節ができなくなったときに発症する疾患についても触れる。 	実験・発表	保健体育「現代社会と健康」
11月3週	3節 免疫	8	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ヒトには異物を排除する防御機構が備わっていることを理解している。 病原体などの異物を認識・排除するしくみを理解している。 免疫の医療への応用やヒトの免疫疾患について理解している。 <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料に基づいて、異物を排除する防御機構が備わっていることを見出して理解することができる。 病原体を認識・排除する機構のしくみを体系的に考察し、表現することができる。 一次応答と二次応答の違いを理解させ、同じ疾患に二度かかりにくい理由を考察できる。 ヒトの免疫疾患について、身近な例をもとに説明することができる。 <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 病原体などの異物を認識・排除するしくみを理解しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 病原体などの異物を認識・排除するしくみを理解している。 免疫の医療への応用やヒトの免疫疾患について理解している。 (定期考査) <ul style="list-style-type: none"> 資料に基づいて、異物を排除する防御機構が備わっていることを見出して理解することができる。 病原体を認識・排除する機構のしくみを体系的に考察し、表現することができる。 ヒトの免疫疾患について、身近な例をもとに説明することができる。 (発問評価・課題提出) <ul style="list-style-type: none"> 病原体などの異物を認識・排除するしくみを理解しようとする。 (発問評価・授業態度) 	<ul style="list-style-type: none"> ヒトには異物を排除する防御機構が備わっていることを見いだして理解させる。 病原体の侵入を防ぐための、異物を認識し、排除するしくみを理解させる。 免疫のしくみの概要を取り上げ、体液性免疫や細胞性免疫について理解させる。 一次応答と二次応答の違いを理解させ、同じ疾患に二度かかりにくい理由を考察させる。 ヒトの身近な免疫疾患について理解させる。 	実験・発表	保健体育「現代社会と健康」
12月	第4章 生物の多様性と生態系 1節 生態系とその成り立ち	6	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 陸上には、森林・草原・砂漠などの多くの植生がみられ、植物をとり巻く環境や構成種により植生が変わっていくことを理解している。 植生の遷移についてその過程を理解している。 <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 植生の成り立ちが、林内の光環境や植物の光に対する特性、土壌の発達段階に影響を受けていることを考察することができる。 資料に基づいて、遷移の要因を見いだして理解することができる。 植生の遷移が、光環境や土壌の変化によってどのように進むかを説明できる。 <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 生物は環境からの影響を受けながら存在し、生態系には多様な生物が存在することを理解しようとする。 資料に基づいて、植生が変化する要因を見だし、その要因が植生にどのような影響を与えるかを理解しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 陸上には、森林・草原・砂漠などの多くの植生がみられ、植物をとり巻く環境や構成種により植生が変わっていくことを理解している。 植生の遷移についてその過程を理解している。 (定期考査) <ul style="list-style-type: none"> 資料に基づいて、遷移の要因を見いだして理解することができる。 植生の遷移が、光環境や土壌の変化によってどのように進むかを説明できる。 (発問評価・課題提出) <ul style="list-style-type: none"> 資料に基づいて、植生が変化する要因を見だし、その要因が植生にどのような影響を与えるかを理解しようとする。 (発問評価・授業態度) 	<ul style="list-style-type: none"> 生物は環境からの影響を受けながら存在し、生態系には多様な生物が存在することを理解させる。 陸上には、草原や森林などのさまざまな植生があることを理解させる。 植生は不変ではなく、光の量や植生をとり巻く環境から影響を受けて変化していくことを理解させる。 環境形成作用により土壌が形成されることを理解させる。 植生内の光環境の変化や土壌の発達によって遷移が進行することを理解させる。 	実験・発表	地理総合「地球的課題と国際協力」
1月	2節 植生とバイオーム	5	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 地球上には、気温や降水量ごとにさまざまなバイオームが成立していることを理解している。 遷移の結果として森林・草原・荒原のバイオームとなることを理解している。 <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 気温や降水量によって成立するバイオームが異なるのは、バイオームを構成する植物種がその場所の気温や降水量に適應しているためであると考察し、それを表現することができる。 <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 地球上にはさまざまなバイオームが成立していることを理解しようとする。 バイオームの構成要素である植物が、その場所の気温や降水量に適應していることを理解しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 地球上には、気温や降水量ごとにさまざまなバイオームが成立していることを理解している。 (定期考査) <ul style="list-style-type: none"> 気温や降水量によって成立するバイオームが異なるのは、バイオームを構成する植物種がその場所の気温や降水量に適應しているためであると考察し、それを表現することができる。 (発問評価・課題提出) <ul style="list-style-type: none"> 地球上にはさまざまなバイオームが成立していることを理解しようとする。 (発問評価・授業態度) 	<ul style="list-style-type: none"> 気温や降水量の違いにより、地球上には多くのバイオームが成立していることを理解させる。 遷移の結果として森林・草原・荒原のバイオームとなることを理解させる。 バイオームの構成要素である植物種を取り上げ、その場所の気温や降水量に適應していることを理解させる。 日本のバイオームについても、その構成種とともに理解させる。 	実験・発表	地理総合「地球的課題と国際協力」
2～3月	3節 生態系と生物の多様性 4節 生態系のバランスと保全	8	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 生態系内における種多様性、生物どうしのかかわりあいについて理解している。 捕食によって物質とエネルギーが移動することを理解している。 野外で行う調査・実験の方法を習得している。 生態系のバランスや、生態系の保全の重要性について理解している。 インターネットや文献などを用いて、調査する方法を習得している。 <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 生態系と生物の多様性に関する観察、実験などから、生態系における生物の種多様性を見いだすことができる。 生物の多様性を食物網や間接効果と関連付けて説明できる。 生態系の保全の重要性について、生物の多様性の視点から考察することができる。 世界の環境問題について、情報を調査し、自分の考えをまとめ、表現することができる。 <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 生態系において、物質が循環すること及びそれに伴ってエネルギーが移動することを理解しようとする。 生態系のバランスについてや、生態系の保全することが重要であることを理解しようとし、認識している。 生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が養われている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生態系内における種多様性、生物どうしのかかわりあいについて理解している。 生態系のバランスや、生態系の保全の重要性について理解している。 (定期考査) 野外で行う調査・実験の方法を習得している。 (実験評価) インターネットや文献などを用いて、調査する方法を習得している。 (課題提出) <ul style="list-style-type: none"> 生態系と生物の多様性に関する観察、実験などから、生態系における生物の種多様性を見いだすことができる。 生態系の保全の重要性について、生物の多様性の視点から考察することができる。 世界の環境問題について、情報を調査し、自分の考えをまとめ、表現することができる。 (発問評価・課題提出) <ul style="list-style-type: none"> 生物が多様であることを、食物網や間接効果と関連付けて説明できる。 生態系のバランスや、生態系を保全することが重要であることを理解しようとする。 (発問評価・授業態度) 	<ul style="list-style-type: none"> 生態系における生物の種多様性について理解させる。 生物の種多様性と生物間の関係性とを関連付けて理解させる。 捕食によって物質とエネルギーが移動することを理解させる。 生態系のバランスと、人為的攪乱によりそのバランスが崩れる場合があることを理解させる。 生態系の保全の重要性について認識させる。 自然環境の保全に寄与する態度を育てる。 	実験・発表	保健体育「環境と健康」
指導時間数の計		70					

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。
-------	--

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
体育	2	全日制・普通科・1学年	なし

科目の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。
-------	---

時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 第2週 ～ 5月 第2週	体づくり運動	8	① 知識・技能 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができるようにする。 ② 思考・判断・表現 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとし、話し合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保すること。	実技テスト 授業の様子 学習ノート 授業の様子 学習ノート	グループ活動 全体活動	体を動かしながら相手や仲間の動きの修正を伝えること、ともに学ぶ仲間の感情に配慮したコミュニケーションを図ること、称賛すべき所作やマナーなどに敬意を払い自身が感じた思いを伝えること。	
5月 第3週 ～ 6月 第3週	陸上競技(長距離走)	8	① 知識・技能 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、長距離走では、自己に適したペースを維持して、一定の距離を走り通し、タイムを短縮したり、競走したりできるようにする。 ② 思考・判断・表現 合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えること。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 陸上競技に自主的に取り組むとともに、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保すること。	実技テスト 授業の様子 学習ノート 授業の様子 学習ノート	個別活動 グループ活動	体を動かしながら相手や仲間の動きの修正を伝えること、ともに学ぶ仲間の感情に配慮したコミュニケーションを図ること、称賛すべき所作やマナーなどに敬意を払い自身が感じた思いを伝えること。	
6月 第4週 ～ 7月 第2週	体育理論	6	① 知識 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。※体育理論については「技能」に係る評価の対象がないことから、「技能」の評価規準は設定していない。 ② 思考・判断・表現 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見しよりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組もうとしている。	テスト 授業の様子 ワークシート 授業の様子 ワークシート	・講義 ・ワークシート作業(課題の整理) ・小テスト	自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法などを選択と実践、演技や発表を通じた学習成果の確認、新たな目標の設定といった課題解決の方法を活用するなど、知識を実践に活用する学習活動を充実すること。	
7月 第3週 ～ 9月 第4週	ダンス	10	① 知識・技能 現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を捉え、変化とまとまりを付けて、リズムに乗って全身で踊ること。 ② 思考・判断・表現 表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ダンスに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、作品や発表などの話し合いに貢献しようとし、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保すること。	実技テスト 授業の様子 学習ノート 授業の様子 学習ノート	個別活動 グループ活動	体を動かしながら相手や仲間の動きの修正を伝えること、ともに学ぶ仲間の感情に配慮したコミュニケーションを図ること、称賛すべき所作やマナーなどに敬意を払い自身が感じた思いを伝えること。	
10月 第1週 ～ 11月	球技(ベースボール型)	10	① 知識・技能 ベースボール型は、易しい投球に対する安定したバット操作により出塁、進塁、得点する攻撃と仲間と連携した守備のバランスのとれた攻防を展開できるようにする。 ② 思考・判断・表現 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。	実技テスト 授業の様子 学習ノート	個別活動 グループ活動	体を動かしながら相手や仲間の動きの修正を伝えること、ともに学ぶ仲間の感情に配慮したコミュニケーションを図ること、称賛すべき所作やマナーなどに敬意を払い自身が感じた思いを伝えること。	

第2週			③ 主体的に学習に取り組む態度 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。	授業の様子 学習ノート			
11月 第3週 ～ 12月 第3週	球技(ゴール型)	10	① 知識・技能 ゴール型は、安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開できるようにする。 ② 思考・判断・表現 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。	実技テスト 授業の様子 学習ノート 授業の様子 学習ノート	個別活動 グループ活動	体を動かしながら相手や仲間の動きの修正を伝えること、ともに学ぶ仲間の感情に配慮したコミュニケーションを図ること、称賛すべき所作やマナーなどに敬意を払い自身が感じた思いを伝えること。	
1月 第2週 ～ 2月 第2週	球技(ネット型)	10	① 知識・技能 ネット型は、ポジションの役割に応じたボールや用具の操作によって、仲間と連携した「拾う、つなぐ、打つ」などの一連の流れで攻撃を組み立てたりして、相手側のコートに空いた場所をめぐる攻防を展開できるようにする。 ② 思考・判断・表現 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。	実技テスト 授業の様子 学習ノート 授業の様子 学習ノート	個別活動 グループ活動	体を動かしながら相手や仲間の動きの修正を伝えること、ともに学ぶ仲間の感情に配慮したコミュニケーションを図ること、称賛すべき所作やマナーなどに敬意を払い自身が感じた思いを伝えること。	
2月 第3週 ～ 3月 第3週	球技(選択)	8	① 知識・技能 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができるようにする。 ② 思考・判断・表現 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、話し合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保すること。	実技テスト 授業の様子 学習ノート 授業の様子 学習ノート	個別活動 グループ活動	体を動かしながら相手や仲間の動きの修正を伝えること、ともに学ぶ仲間の感情に配慮したコミュニケーションを図ること、称賛すべき所作やマナーなどに敬意を払い自身が感じた思いを伝えること。	
指導時間数の計		70					

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。
-------	--

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
保健	1	全日制・普通科・1学年	新高等保健体育(大修館書店)

科目の目標	保健の見方・考え方を働かせて、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。 (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。
-------	--

時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 <単元・題材の評価規準>	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 5月	第1章 現代社会と健康 (1)日本における健康課題の変遷 (2)健康の考え方と成り立ち (3)ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり (4)健康に関する意思決定・行動選択	7	① 知識・技能 国民の健康課題について、我が国の死亡率、受療率、平均寿命、健康寿命など各種の指標や疾病構造の変化を通して理解できるようにする。また、健康水準の向上、疾病構造の変化に伴い、個人や集団の健康についての考え方も変化してきていることについて理解できるようにする。また、健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方に基づき、適切な意思決定や行動選択により、疾病等のリスクを軽減することを含め、自らの健康を適切に管理することが必要であるとともに、環境づくりが重要であることを理解できるようにする。 ② 思考・判断・表現 現代社会と健康における事象や情報などについて、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見すること。また、国民の健康課題について、我が国の健康水準の向上や疾病構造の変化に関するデータや資料に基づいて分析し、生活の質の向上に向けた課題解決の方法をヘルスプロモーションの考え方を踏まえて整理すること。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 現代社会と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明すること。	テスト ワークシート ワークシート レポート 観察 観察 ワークシート	・講義 ・ワークシート作業(グループワーク) ・レポート作成	個人及び社会生活における健康の保持増進や回復について話し合う活動などを通して、コミュニケーション能力や論理的な思考力の育成を促し、主体的な学習活動の充実を図ること。	
6月	現代における感染症の問題 感染症の予防 性感染症・エイズとその予防	4	① 知識・技能 感染症は、時代や地域によって自然環境や社会環境の影響を受け、発生や流行に違いが見られることを理解できるようにする。その際、交通網の発達により短時間で広がりやすくなっていること、また、新たな病原体の出現、感染症に対する社会意識の変化等によって、腸管出血性大腸菌(O157等)感染症、結核などの新興感染症や再興感染症の発生や流行が見られることを理解できるようにする。また、感染症のリスクを軽減し予防するには、衛生的な環境の整備や検疫、正しい情報の発信、予防接種の普及など社会的な対策とともに、それらを前提とした個人の取組が必要であることを理解できるようにする。その際、エイズ及び性感染症についても、その原因、及び予防のための個人の行動選択や社会の対策について理解できるようにする。 ② 思考・判断・表現 感染症の発生や流行には時代や地域によって違いがみられることについて、事例を通して整理し、感染のリスクを軽減するための個人の取組及び社会的な対策に応用すること。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 現代社会と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明すること。	テスト ワークシート ワークシート レポート 観察 観察 ワークシート	・講義 ・ワークシート作業(グループワーク) ・レポート作成	個人及び社会生活における健康の保持増進や回復について話し合う活動などを通して、コミュニケーション能力や論理的な思考力の育成を促し、主体的な学習活動の充実を図ること。	家庭科 理科(生物)
7月 9月	生活習慣病の予防と回復 身体活動・運動と健康 食事と健康 休養・睡眠と健康 がんの予防と回復	7	① 知識・技能 がん、脳血管疾患、虚血性心疾患、高血圧症、脂質異常症、糖尿病などを適宜取り上げ、これらの生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることを理解できるようにする。その際、がんについては、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて理解できるようにする。 ② 思考・判断・表現 生活習慣病などの予防と回復について、習得した知識を基に自他の生活習慣や社会環境を分析し、リスクの軽減と生活の質の向上に必要な個人の取組や社会的な対策を整理すること。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 現代社会と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明すること。	テスト ワークシート ワークシート レポート 観察 観察 ワークシート	・講義 ・ワークシート作業(グループワーク) ・レポート作成	個人及び社会生活における健康の保持増進や回復について話し合う活動などを通して、コミュニケーション能力や論理的な思考力の育成を促し、主体的な学習活動の充実を図ること。	家庭科 理科(生物)
9月	喫煙と健康	5	① 知識・技能 喫煙や飲酒は、生活習慣病などの要因となり心身の健康を損ねることを理解できるようにする。コカイン、MDMAなどの麻薬、覚醒剤、大麻、など、薬物の乱用は、心身の健康、社会の安全などに対して深刻な影響を及ぼすことから、決して行ってはならないことを理解できるようにする。また、喫煙や飲酒、薬物乱用による健康課題を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観の育成などの個人への働きかけ、及び法的な整備も含めた社会環境への適切な対策が必要であることを理解できるようにする。	テスト ワークシート	・講義 ・ワークシート作業(グループワーク) ・レポート作成	個人及び社会生活における健康の保持増進や回復について話し合う活動などを通して、コミュニケーション能力や論理的な思考力の育成を促し、主体的な学習活動の充実を図ること。	家庭科 理科(生物、化学)

10月	飲酒と健康 薬物乱用と健康		② 思考・判断・表現 喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、我が国のこれまでの取組を個人への働きかけと社会環境への対策の面から分析したり、諸外国と比較したりして、防止策を評価すること。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 現代社会と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明すること。	ワークシート レポート 観察			
11月	精神疾患の特徴 精神疾患への対応	3	① 知識・技能 精神疾患は、精神機能の基盤となる心理的、生物的、または社会的な機能の障害などが原因となり、認知、情動、行動などの不調により、精神活動が不全になった状態であることを理解できるようにする。また、うつ病、統合失調症、不安症、摂食障害などを適宜取り上げ、誰もが罹患しうること、若年で発症する疾患が多いこと、適切な対処により回復し生活の質の向上が可能であることなどを理解できるようにする。精神疾患の予防と回復には、身体の健康と同じく、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた生活を実践すること、早期に心身の不調に気付くこと、心身に起こった反応については体ほぐしの運動などのリラクゼーションの方法でストレスを緩和することなどが重要であることを理解できるようにする。また、心身の不調時には、不安、抑うつ、焦燥、不眠などの精神活動の変化が、通常時より強く、持続的に生じること、心身の不調の早期発見と治療や支援の早期の開始によって回復可能性が高まることを理解できるようにする。 ② 思考・判断・表現 精神疾患の予防と回復について、習得した知識を基に、心身の健康を保ち、不調に早く気付くために必要な個人の取組や社会的な対策を整理すること。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 現代社会と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明すること。	テスト ワークシート ワークシート レポート 観察 観察 ワークシート	・講義 ・ワークシート作業 (グループワーク) ・レポート作成	個人及び社会生活における健康の保持増進や回復について話し合う活動などを通して、コミュニケーション能力や論理的な思考力の育成を促し、主体的な学習活動の充実を図ること。	
12月 1月	第2章 安全な社会生活 事故の現状と発生要因 交通事故防止の取り組み 安全な社会の形成	5	① 知識・技能 事故は、地域、職場、家庭、学校など様々な場面において発生していること、事故の発生には、周りの状況の把握及び判断、行動や心理などの人的要因、気象条件、施設・設備、車両、法令、制度、情報体制などの環境要因などが関連していることを理解できるようにする。また、事故を防止したり事故の発生に伴う傷害等を軽減したりすることを目指す安全な社会の形成には、交通安全、防災、防犯などを取り上げて、法的な整備などの環境の整備、環境や状況に応じた適切な行動などの個人の取組、及び地域の連携などが必要であることを理解できるようにする。また、交通事故を防止するには、自他の生命を尊重するとともに、自分自身の心身の状態や周りの環境、車両の特性などを把握すること、及び個人の適切な行動、交通環境の整備が必要であることを理解できるようにする。また、交通事故には補償をはじめとする法的責任などが生じることを理解できるようにする。 ② 思考・判断・表現 安全な社会生活における事象や情報などについて、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見すること。また、安全な社会づくりについて、様々な事故や災害の事例から、安全に関する情報を整理し、環境の整備に応用すること。交通安全について、習得した知識を基に、事故につながる危険を予測し回避するための自他や社会の取組を評価すること。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 現代社会と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明すること。	テスト ワークシート ワークシート レポート 観察 観察 ワークシート	・講義 ・ワークシート作業 (グループワーク) ・レポート作成	個人及び社会生活における健康の保持増進や回復について話し合う活動などを通して、コミュニケーション能力や論理的な思考力の育成を促し、主体的な学習活動の充実を図ること。	
2月 3月	応急手当の意義と救急医療体制 心肺蘇生法 日常的な応急手当	4	① 知識・技能 適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を緩和したりすることを理解できるようにする。また、自他の生命や身体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会をつくるには、一人一人が適切な連絡・通報や運搬も含む応急手当の手順や方法を身に付けるとともに、自ら進んで行う態度が必要であること、さらに、社会の救急体制の整備を進めること、救急体制を適切に利用することが必要であることを理解できるようにする。また、日常生活で起こる傷害や、熱中症などの疾病の際には、それに応じた体位の確保・止血・固定などの基本的な応急手当ができるようにする。心肺停止状態においては、急速に回復の可能性が失われつつあり、速やかな気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED（自動体外式除細動器）の使用などが必要であること、及び方法や手順について、実習を通して理解し、AEDなどを用いて心肺蘇生法ができるようにする。 ② 思考・判断・表現 応急手当について、習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に応用すること。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 安全な社会生活と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明すること。	テスト ワークシート ワークシート レポート 観察 観察 ワークシート	・講義 ・ワークシート作業 (グループワーク) ・レポート作成	個人及び社会生活における健康の保持増進や回復について話し合う活動などを通して、コミュニケーション能力や論理的な思考力の育成を促し、主体的な学習活動の充実を図ること。	
指導時間数の計		35					

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。(知識及び技能) ○自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。(思考力、判断力、表現力等) ○主体的・協働的に音楽活動に取り組み、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
音楽Ⅰ	2	全日制・普通科・1学年	MOUSA 1(教育芸術社)
科目の目標	○曲想と音楽の構造、言葉の特性と曲種に応じた発声、発音等、様々な表現形態について理解し、創意工夫を生かした歌唱表現、器楽表現、創作表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。(知識及び技能) ○音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら個性豊かに音楽表現を工夫し、知覚したことを根拠として批評しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。(思考力、判断力、表現力等) ○生徒一人一人が自らの考えを他者との交流の中で共有し、共感したりしながら個々の学びを深め、音楽活動を通して、音楽と人々の生活などとの関わりに関心を持ち、様々な音楽の多様性を認め、音楽文化に親しむ態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)		

時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4 5 6 7 月	曲にふさわしい発声で表情豊かに歌おう	5	① 知識・技能 曲にふさわしい発声、発音をすることができる。曲想と音楽の構造、歌詞との関わりを理解している。 ② 思考・判断・表現 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、表現意図をもったり、表現の工夫をしている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 主体的に歌唱表現の試行錯誤を行いながら、納得のいく表現が出来るまで粘り強く取り組もうとしている。	実技試験 授業時の観察 実技試験 振り返りシート 振り返りシート 自主的な取り組み	・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などに留意して歌い、表現に必要な技能を身に付ける ・歌ったり互いに聴きあったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解する ・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫する	・互いに聴きあい、曲想について考えを深め、歌詞を味わう ・イメージの共有を図る ・どのような事に留意して歌うと、より表現の幅が広がるかを考える	
	ボディー・パーカッションや“Cups”に挑戦しよう	3	① 知識・技能 リズムを正確に捉え、曲想に合った音色や奏法について理解し、パフォーマンスをする技能を身に付けている。 ② 思考・判断・表現 リズムの繋がり合いを意識し、よさや美しさを味わいながら曲想を捉え、どのように表すか表現意図をもっている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 イメージをもって、他者と協働しながら、曲の持つ特徴を主体的に表現しようとしている。	グループ発表(実技試験) 他グループの作品鑑賞 授業時の観察 グループ発表(実技試験) 振り返りシート 振り返りシート 自主的な取り組み	・リズムを正確に捉えたとともに、その重なり合いやつながりを意識して演奏する ・曲想にあった音色や奏法、パフォーマンスなどの技能を身に付け、表現を工夫する ・共通のイメージをもって、曲の特徴を生かした表現ができるよう試行錯誤したり意見を交換したりしながら演奏する	・表現の工夫についてアイディアを出し合う ・曲の特徴を見つけ出し、共通のイメージをもつ ・それぞれのアンサンブルグループで試行錯誤し練習する	
	表現を工夫してリコーダーを演奏しよう	4	① 知識・技能 曲にふさわしい奏法や、身体の使い方を理解して演奏する技能を身に付けている。 ② 思考・判断・表現 互いに聴き合うことで、曲想や、曲に合った音色、演奏に対する考えを深めながら、表現を工夫している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 イメージをもって、他者と協働しながら、曲の持つ特徴を主体的に表現しようとしている。	実技試験 授業時の観察 実技試験 振り返りシート 振り返りシート 自主的な取り組み	・曲にふさわしい奏法や身体の使い方などに留意して演奏し、表現に必要な技能を身に付ける ・演奏したり互いに聴きあったりしながら、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解する ・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫する	・身体の使い方、奏法などをペアで確認し合い、良い点や、改善点について話し合い、技能の向上を図る ・音色の聴き比べを行い、試行錯誤しながら表現の幅を広げる	
	J-POPや歌謡曲の特徴を理解して歌おう	4	① 知識・技能 曲想と音楽の構造や歌詞、文化的背景との関わりについて理解している。 ② 思考・判断・表現 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、表現意図をもったり、表現の工夫をしている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 主体的に歌唱表現の試行錯誤をしている。自分や社会にとっての音楽の意味や価値を見出そうとしている。	作品鑑賞シート 授業時の観察 作品鑑賞シート 振り返りシート 振り返りシート 自主的な取り組み	・曲について調べたり意見を交換したりして曲想と音楽の構造や歌詞、文化的背景との関わりを理解するとともに、自分や社会にとっての音楽の意味や価値を考える ・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫する	・曲について調べ、意見交換をする ・音楽を形づくっている要素について考え、表現を工夫するためにアイディアを出し合う	
	「コード進行」をもとにメロディーをつくろう	3	① 知識・技能 コード進行について理解している。メロディーをついたり、重ねたりする技能を身に付けている。 ② 思考・判断・表現 自分の表したいイメージに合うメロディーをつくるために、様々な手法を用いて音楽表現を工夫している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 創作したメロディーを、よりよく重ね合わせるため、納得のいく表現が出来るまで試行錯誤しながら、粘り強く取り組もうとしている。	創作作品提出 授業時の観察 創作作品提出 振り返りシート 振り返りシート 自主的な取り組み	・コードの構成音をもとに音の組み合わせやつなげ方を試しながら、自分の表したいイメージに合うメロディーをつくる ・反復、変化などの手法を用いてメロディーをついたり、つくったメロディーにもう一つのメロディーを重ねたりする技能を身に付ける	・作品の発表会を行い、創作意図や、込めた想いを相手に伝える	
	音楽を形づくっている要素に注目して、曲のよさや美しさを探ろう	5	① 知識・技能 音楽を形づくっている要素について理解している。 ② 思考・判断・表現 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、音楽を評価しながらよさや美しさを味わっている。	作品鑑賞シート 授業時の観察 作品鑑賞シート 振り返りシート	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きに注目しながら鑑賞する ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて意見を交換し理解を深める ・曲や演奏に対する評価とその根拠を述べ合う	・曲想や表現上の効果、音楽の構造と関わりについての意見交換を行う ・演奏に対する評価を、根拠を持ってお互いに述べ合う	

		③ 主体的に学習に取り組む態度 他者と協働しながら、曲や演奏に対する評価を、根拠を持って主体的に表現しようとしている。	振り返りシート 自主的な取り組み			
	能や謡に親しもう	① 知識・技能 日本の伝統音楽のひとつである能について理解している。能の謡の表現に必要な技能を身に付けている。 ② 思考・判断・表現 曲にふさわしい発声や、言葉の発音、身体の使い方などに留意しながら、謡の表現のよさや美しさを伝えられるよう表現の工夫をしている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 能の誕生した背景や文化に興味をもち、主体的に日本音楽のよさや美しさについて考えを深めようとしている。	作品鑑賞シート 授業時の観察 作品鑑賞シート 振り返りシート 振り返りシート 自主的な取り組み	・能を鑑賞したり能について調べたりしながら、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりを理解する ・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などに留意して謡い、表現に必要な技能を身に付ける	・日本音楽のよさや美しさについて自分なりに考えたことを伝え合う ・発声や発音など、曲にふさわしくなるよう互いに聴き合い、アドバイスをする	・能の誕生した室町時代から日本の文化・歴史的背景、謡の言葉をたどり、地理歴史、国語との関連を図る
9 10 11 12 月	表現を工夫してギターやウクレレを演奏しよう	① 知識・技能 曲にふさわしい奏法や、身体の使い方を理解して演奏する技能を身に付けている。 ② 思考・判断・表現 曲想と楽器の音色、奏法などとの関わり合いを感受しながら、自己のイメージをもって表現の工夫をしている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 他者と協働しながら、楽器演奏に親しみ、主体的に音楽表現に取り組もうとしている。	実技試験 授業時の観察 実技試験 振り返りシート 振り返りシート 自主的な取り組み	・曲にふさわしい奏法や身体の使い方などに留意して演奏し、表現に必要な技能を身に付ける ・演奏したり互いに聴きあったりしながら、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解する ・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫する	・ペアで演奏し合い、奏法や、ふさわしい音色が出せているか確認する ・アイデアを出し合い、表現の工夫のため試行錯誤する	
	日本や諸外国の歌曲に親しみ、表現を工夫して独唱しよう	① 知識・技能 曲にふさわしい発声、発音をすることができる。曲想と音楽の構造、歌詞との関わりを理解している。 ② 思考・判断・表現 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの動きを感受しながら、表現意図をもったり、表現の工夫をしている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 日本語や、外国語の発音の違いについて考えながら、主体的に歌唱表現の試行錯誤を行い、納得のいく表現が出来るまで粘り強く取り組もうとしている。	実技試験 授業時の観察 実技試験 振り返りシート 振り返りシート 自主的な取り組み	・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などに留意して歌い、表現に必要な技能を身に付ける ・歌ったり互いに聴きあったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりを理解する ・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫する	・日本や諸外国の違いやそれぞれの国のよさについて話し合い、理解を深める ・互いに聴き合い、歌詞や構造について考えを深め、表現の工夫に繋げる	・日本の伝統音楽と諸外国の音楽に親しむ課程で、その固有の音楽が生まれた郷土の文化や伝統について学び、地理歴史との関連を図る
	発音や発声を工夫して声によるアンサンブルをつくらう	① 知識・技能 曲想と音楽の構造や、歌詞との関わりについて理解している。反復・変化を用いたリズムアンサンブルの技能を身に付けている。 ② 思考・判断・表現 オノマトペのもつリズム感やアクセントなどを意識し、おもしろさを生かすために、どのように表すか表現意図をもっている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 自己のイメージを働かせながら、主体的にアンサンブル表現の試行錯誤を行い、納得のいく表現が出来るまで粘り強く取り組もうとしている。	グループ発表（実技試験） 授業時の観察 グループ発表（実技試験） 振り返りシート 振り返りシート 自主的な取り組み	・オノマトペのもつリズム感やアクセントなどのおもしろさを生かして、それを重ねたりしながら、パートの組み合わせなどを工夫してリズム・アンサンブルをつくる ・反復、変化などの手法を用いてリズム・アンサンブルをつくる技能を身に付ける ・歌ったり互いに聴きあったりしながら曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解する ・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫する	・オノマトペについて、自分のよく使うものや、日常に溶け込んでいるものを出し合う ・オノマトペを組み合わせ、さまざまな手法を生かしリズムアンサンブルを創りあげる ・発表会を行い、グループの思いや意図を相手に伝える	・オノマトペを通して、日本独自で発達してきた固有の表現方法についても理解を深め、国語との関連を図る
	表現を工夫して合唱やヴォイス・アンサンブルをしよう	① 知識・技能 各パートや指揮者の役割について理解し、他者との調和・協働を意識したアンサンブルの技能を身に付けている。 ② 思考・判断・表現 全体の響きやハーモニーを意識し、創りあげた共通のイメージから、音楽を形づくっている要素を手がかりに、どのように表すか表現意図をもっている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 自己のイメージを働かせ、主体的に試行錯誤しながら、納得のいく表現が出来るまで粘り強く取り組もうとしている。	グループ発表（実技試験） 授業時の観察 グループ発表（実技試験） 振り返りシート 振り返りシート 自主的な取り組み	・一人一人が主体性を発揮しながら、他者との調和を意識して演奏する技能を身に付ける ・各パートや指揮者の役割を理解するとともに、全体の響きやハーモニーをイメージしながら演奏する ・共通のイメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫する	・自分自身の意思を確立させたいうえで、話し合いをし、アンサンブルの方向性を決める ・アイデアを出し合い、表現の工夫のため試行錯誤する ・発表会を行い、グループの思いや意図を相手に伝える	
	和楽器に親しみ、演奏に挑戦しよう	① 知識・技能 和楽器の音色の特徴や曲想について理解し、演奏に必要な技能を身に付けている。 ② 思考・判断・表現 曲にふさわしい発音や、身体の使い方などに留意しながら、和楽器のよさや美しさを伝えられるよう表現の工夫をしている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 自己のイメージを働かせ、試行錯誤しながら、音楽表現をし、主体的に日本音楽のよさや美しさについて考えを深めようとしている。	作品鑑賞シート 授業時の観察 作品鑑賞シート 振り返りシート 振り返りシート 自主的な取り組み	・曲にふさわしい奏法、身体の使い方などに留意して演奏し、表現に必要な技能を身に付ける ・演奏したり鑑賞したりしながら、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解する ・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫する	・身体の使い方、奏法などをペアで確認し合い、良い点や、改善点について話し合い、技能の向上を図る ・音色の聴き比べを行い、試行錯誤しながら表現の幅を広げる	・日本独自の音楽と、諸外国より伝来し独自の発達を遂げた楽器について学び、造りかえられた背景にも触れながら、地理歴史との関連を図る
	世界の諸民族の音楽を知ろう	① 知識・技能 世界各地の音楽の特徴と文化・歴史について理解する。曲にふさわしい発声、表現に必要な技能を身に付けている。 ② 思考・判断・表現 特有の音色、リズムや旋律など曲にふさわしい発声や、身体の使い方などに留意しながら、表現の工夫をしている。	作品鑑賞シート 授業時の観察 作品鑑賞シート 振り返りシート	・世界各地の音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりを理解しながら鑑賞する ・それぞれの音楽表現の共通性や固有性について気付いたことや考えたことを述べあい、理解を深める ・アリアンとヨーデルの色の音色、リズム、旋律などの特徴を理解し、曲にふさわしい発声で歌い、表現に必要な技能を身に付ける	・音楽表現の共通性や固有性について、気付いたこと、考えたことを伝え合う	・世界の諸民族の音楽だけでなく、音楽の生まれた郷土、文化、歴史的背景について学び、地理歴史との関連を図る

			③ 主体的に学習に取り組む態度 自己のイメージを働かせ、主体的に世界の諸民族の音楽のよさや美しさを感じ、試行錯誤しながら音楽表現に取り組もうとしている。	振り返りシート 自主的な取り組み			
1 2 3 月	ミュージカル・ナンバーを歌おう	4	① 知識・技能 物語の内容やあらすじを理解し、曲にふさわしい発声や発音、身体の使い方を身に付けている。 ② 思考・判断・表現 他者と意見交換する中で、曲想と音楽構造や歌詞との関わり、音楽を形づくっている要素の働きを感じながら音楽表現を工夫している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 自己のイメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方を試行錯誤しながら、納得のいく表現が出来るまで粘り強く取り組もうとしている。	作品鑑賞シート 授業時の観察 作品鑑賞シート 振り返りシート 振り返りシート 自主的な取り組み	・ミュージカルを鑑賞し、物語のあらすじや歌詞の内容、登場人物の心情などを理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などに留意して歌い、表現に必要な技能を身に付ける ・歌ったり互いに聴きあったり、意見を交換したりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解する ・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫する	・互いに聴きあい、曲想について考えを深め、歌詞を味わう ・どのような事に留意して歌うと、より表現の幅が広がるかを考える	・英語に親しみ、日本の歌曲との異なる点を学ぶ ・物語の内容理解、登場人物の心情理解をし、物語の生まれた背景、作曲家についても学び、外国語、国語との関連を図る
	作曲家の生涯と作品をたどろう	2	① 知識・技能 作曲家の生涯と作品について理解している。 ② 思考・判断・表現 曲や演奏に対する批評を、根拠を持って伝え合うため、音楽的特徴と表現意図をくみ取りながら鑑賞している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 文化的・歴史的背景と作品との関わりに関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の活動に取り組もうとしている。	作品鑑賞シート 授業時の観察 作品鑑賞シート 振り返りシート 振り返りシート 自主的な取り組み	・作品を鑑賞したり、作曲家について調べたり、意見を交換したりしながら曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりを理解する ・曲や演奏に対する評価とその根拠を述べ合う	・作品について、調べ学習を通して理解を深め、さらに自分なりの考察を述べ合い、曲や演奏に対する評価を伝え合う	・作曲家について理解を深めるために、使用言語や、生まれた国、当時の社会情勢について学ぶ中で、外国語、地理歴史との関連を図る
	オペラに親しみ、アリアに挑戦しよう	4	① 知識・技能 物語の内容やあらすじを理解し、曲にふさわしい発声や発音、身体の使い方を身に付けている。 ② 思考・判断・表現 他者と意見交換する中で、曲想と音楽構造や歌詞との関わり、音楽を形づくっている要素の働きを感じながら音楽表現を工夫している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 自己のイメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方を試行錯誤しながら、納得のいく表現が出来るまで粘り強く取り組もうとしている。	作品鑑賞シート 授業時の観察 作品鑑賞シート 振り返りシート 振り返りシート 自主的な取り組み	・オペラを鑑賞し、物語のあらすじや歌詞の内容、登場人物の心情などを理解するとともに、舞台芸術としてのオペラの特徴を知る ・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などに留意して歌い、表現に必要な技能を身に付ける ・歌ったり互いに聴きあったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解する ・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫する	・互いに歌ったりしながら聴き合い、曲にふさわしい発声や発音について考える ・ストーリーなどから感じたことを伝え合い、音楽表現に生かす	・イタリア語に親しみ、英語とは発音が異なることを学ぶ ・物語の内容理解、登場人物の心情理解をし、物語の生まれた背景、作曲家についても学び、外国語、国語、地理歴史との関連を図る
	さまざまな器楽アンサンブルを楽しもう	4	① 知識・技能 リズムを正確に捉え、曲想に合った音色や奏法について理解し、表現する技能を身に付けている。 ② 思考・判断・表現 リズムの繋がりを意識し、よさや美しさを味わいながら曲想を捉え、どのように表すか表現意図をもっている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 イメージをもって、他者と協働しながら、曲の持つ特徴を主体的に表現しようとしている。	グループ発表（実技試験） 授業時の観察 グループ発表（実技試験） 振り返りシート 振り返りシート 自主的な取り組み	・一人一人が主体性を発揮しながら、他者との調和を意識して演奏する技能を身に付ける ・各パートの役割を理解するとともに、全体の響きやハーモニーをイメージしながら演奏する ・共通のイメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫する	・自分自身の意思を確立させたいうえで、話し合いをし、アンサンブルの方向性を決める ・アイデアを出し合い、表現の工夫のため試行錯誤する ・発表会を行い、グループの思いや意図を相手に伝える	・よりよいアンサンブルを実現するため、リズムに乗り、身体を動かすことで、保健体育との関連を図る
指導時間数の計		70					

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○芸術に関する専門的で幅広く多様な内容について理解を深めるとともに、独創的・創造的に表すことができるようにする。(知識及び技能) ○芸術に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ、創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。(思考力、判断力、表現力等) ○主体的に美術に関する専門的な学習に取り組み、感性を磨き、芸術文化の継承、発展、創造に寄与する態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)
-------	--

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
美術 I	2	全日制・普通科・1学年	高校生の美術 1 (日本文教出版)

科目の目標	○対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、創意工夫し、造形的に表す事ができるようにする。(知識及び技能) ○造形的な良さや美しさや、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識を持って美術文化に対する見方や感じ方を深めたりする事ができるようにする。(思考力、判断力、表現力等) ○主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)
-------	--

時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 〈単元・題材の評価規準〉	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月	「鉛筆デッサン」 光と影を意識して、身近なものを描こう	6	① 知識・技能 鉛筆の使い方や持ち方、カッターを使った削り方を理解している。	作品提出 授業時の観察 鑑賞シート	・形や質感などの効果を考えながらモチーフ(手・ピン)をよく観察し、画面に適切なサイズで描く。 ・光源の位置による影の落ち方を考える。 ・デッサンに適した鉛筆の削り方を学びカッターを用いて実践する。	フェルメール等西洋画の作品に使われている光と影を使った表現技法を話し合いの中で発見する。	西洋で生まれた立体表現や、当時の時代背景なども学び、世界地理や歴史との関連を図る。
			② 思考・判断・表現 光源の位置とそれに伴う影の出来方についてよく観察し工夫して鉛筆で表現できている。 モチーフの質感の違いを鉛筆を用いて工夫して表現できている。	作品提出 授業時の観察 鑑賞シート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 モチーフをよく観察し、鉛筆で光と影で立体として捉え表現しようと創意工夫をしている。	作品提出 授業時の観察 鑑賞シート			
5月	「着彩スクラッチアート」 線を用いた作品表現をしよう	8	① 知識・技能 スクラッチアートの性質を理解し、正しくニードルで制作できている。絵の具を細部まできれいに塗ることができている。	作品提出 授業時の観察 鑑賞シート	・鉛筆デッサンで学んだ光と影の効果を利用するとともに、スクラッチアートの特性を理解し、形や構図、色彩の効果などを創意工夫し、線の強弱や絵の具を使って作品に表す。	自身の作品に用いた、線による表現工夫を周りの生徒と共有し、お互いの良いところを利用し合う。	
			② 思考・判断・表現 材料の性質や鉛筆デッサンとの違いをよく理解した上で構想を練ることができている。	作品提出 授業時の観察 鑑賞シート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 スクラッチ表現の特徴について主体的に考えようとし、他の生徒の制作からも積極的に良さを取り入れようとしている。	作品提出 授業時の観察 鑑賞シート			
6月	「想像を形に」 想像の世界を表そう	14	① 知識・技能 油絵の具の特性を理解して正しく使うことが来ている。 頭でイメージした世界を絵の具の特性を生かして構図に起こし作品にできている。	作品提出 授業時の観察 鑑賞シート	・想像や空想したイメージをもとに、形態や色彩、配置、組み合わせなどの効果を考え、構想をねったり鑑賞したりする。 ・具体物や抽象的なものの組み合わせ、構図や色彩などの効果、油絵の具の特性などを生かしながら、作品として表現する。	自身の作品について、クラス内の生徒に向けて解説し、制作の感想等を発表する。	
			② 思考・判断・表現 イメージを基に、色彩や構図、絵の具の特性などを工夫して作品に表せている。	作品提出 授業時の観察 鑑賞シート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 想像の世界のイメージを膨らませ、柔軟な発想で構想を練り作品として伝えようとしている。他の生徒の発想や絵具の使い方などを積極的に取り組み、自分の作品に生かそうとしている。	作品提出 授業時の観察 鑑賞シート			
9月	「版で表す」 版の重なりを意識して版画作品を作ろう	12	① 知識・技能 版画の歴史や浮世絵について理解している。 版に起こすときと刷るときの見え方の違いを理解し、正しく刷ることができている。	作品提出 授業時の観察 鑑賞シート	・版画の歴史や技法について学びながら、その特徴を生かすようイメージや構想を練り、色をつける部位やその重なり注目して作品に表す。 ・彫刻刀でゴム版を削り、絵の具を使って色を乗せる順番や作品全体としての雰囲気や色合いの捉えながら紙に刷る。	自身の作品について、構想段階での色彩や版の重なるポイントを各自説明することで、版画の特性の理解を図る。	江戸時代に発達した浮世絵版画について触れることで、日本の文化や歴史との関連を図る。
			② 思考・判断・表現 ゴムによる版画という特性や、色数などに留意しながら構想を練り、工夫して版に起こせている。	作品提出 授業時の観察 鑑賞シート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 絵の具や水量の調節や、刷る順番、時間や強さなど主体的に思考錯誤を重ねながら、作品の完成へと筋道を立てて考えられえている。	作品提出 授業時の観察 鑑賞シート			
			① 知識・技能 立体作品としての特徴を捉えることができている。構想シートを基に粘土を使って立体に表現できている。	作品提出 授業時の観察	・自然物や人工物からイメージを得たり、形や質	自身の作品について	

12月	「立体で表す」 立体表現の特性を考え粘土で表現しよう	8	② 思考・判断・表現 立体としてのバランスや動きなどを生かして、多面的な構想を練ることができている。粘土の素材を生かした立体としての美しさや存在感を表せている。	作品提出 授業時の観察 鑑賞シート	ヘーンと待たず、形や質感、重心などの効果を考え、構想を練ったり生徒同士の作品を鑑賞したりするとともに、バランスや動き、全体のイメージなどを捉え、粘土などの素材の特性を生かして表す。	自身の作品について、制作する上で工夫した立体としての表現技法や、制作で得られた感想などをクラス内で発表する。	
			③ 主体的に学習に取り組む態度 立体表現の良さや特性について考えながら、材料や技法などに創意工夫が見られる。	作品提出 授業時の観察 鑑賞シート			
1月	「アニメーション」 アニメの仕組みについて学び鑑賞した上で、実際にパラパラ漫画を作ってみよう。	10	① 知識・技能 アニメーションの構造やパラパラ漫画の仕組みについて理解している。	作品提出 授業時の観察 鑑賞シート			
			② 思考・判断・表現 映像を鑑賞しながら、作品に使われている表現方法について主体的に感じ取り、その効果について考えることができている。 パラパラ漫画における動きや構図の重要性を理解し、自分なりの表現で制作に落とし込んでいる。	作品提出 授業時の観察 鑑賞シート	・アニメーションの仕組みや作り方について学ぶ。 ・短編アニメを鑑賞する。 ・実際にパラパラ漫画を作成し、イメージを連続した画像（映像）として表現する上での、画面の構成と時間の流れや物語性などを創意工夫し制作する。	アニメーションを鑑賞する上で気がついた表現方法や、それによって感じた効果について自分の考えをシートにまとめる。	
			③ 主体的に学習に取り組む態度 主体的に映像の魅力や特徴を見つけようとしている。パラパラ漫画での構図の意図について試行錯誤を重ねながら表現し、その効果について具体的に説明ができている。	作品提出 授業時の観察 鑑賞シート			
2月	「椅子のデザイン」 デザインの役割を学び、実際に椅子のデザイン案を考えよう。	8	① 知識・技能 デザインの持つ役割やデザインする上で大切なものについて理解を深めている。	作品提出 授業時の観察 鑑賞シート			
			② 思考・判断・表現 椅子を使う環境や対象となる人について具体的に考えて、必要な要素や機能、形としての魅力など多角的に構想を練ることができている。	作品提出 授業時の観察 鑑賞シート	・「使う」「飾る」「伝える」などの幅広いデザインの世界や役割を、椅子というプロダクトを通して学ぶ。デザインとはなにか、デザインするときには何が大切かを考える。	自身のデザインの意図や使う場面、その特徴などをクラス内に向けて発表する。	
			③ 主体的に学習に取り組む態度 自らデザインした椅子について、色やイラスト、文字を使って紙に表現し、他の生徒にわかりやすく説明ができている。主体的に他の生徒のデザインの良さについて考えようとしている。	作品提出 授業時の観察 鑑賞シート	・実際に椅子のデザインを考え、その役割や環境などイラストや言葉で画用紙にまとめる。		
3月	「芸術とはなにか」 バンクシーの作品を鑑賞し、芸術とは何かについて考えよう。	4	① 知識・技能 作家による意図やメッセージ、文化による絵画表現の違いなどについてよく理解している。	授業時の観察 鑑賞シート			
			② 思考・判断・表現 作品が置かれている環境や時期、大きさなど多面的にその作品の持つ意図やメッセージを読み取れている。芸術表現の幅や言葉の持つ範囲について考えることができている。	授業時の観察 鑑賞シート	バンクシーの生い立ちや作品を鑑賞し、作品表現の意図や工夫、置かれている環境、その効果について考え話し合うとともに、ストリートアートや現代アートのみならず、芸術の役割について考える。	作品を鑑賞した上で、自分の考える芸術とは何かについてワークシートにまとめる。	現代アートの成り立ちや、芸術の多様化について、発祥した土地の文化や歴史などから紐解き、世界地理や世界史との関連を図る。
			③ 主体的に学習に取り組む態度 作者の意図や作品の与える影響など、作り手の立場に立って主体的に読み取ろうとしている。芸術に対する自分なりの解釈を言葉で伝えようとしている。	授業時の観察 鑑賞シート			
指導時間数の合計		70					

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○1学年修了時までには少なくともCEFR-Jの指標におけるA2-1レベル、2学年修了時までにはA2-2レベル、3学年前期終了までには、B2-1レベルの英語運用能力の知識と技能を身に着ける。(知識及び技能) ○英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、5技能を結び付けた統合的な言語活動の中で、与えられた英語の題材に対する的確な解釈をベースに、筆者や話し手の意図や思いを考察し、それに対する自己の考えとそう考えるに至った理由について、一定の支援を得ながら述べることができる。さらにその事柄について、他の生徒と意見を交換したり、ある課題については、その解決に向けて何が必要かなどについて、一定の支援を得ながら話し合うことができる。(思考力、判断力、表現力等) ○授業における協働学習やALTや海外からの留学生等との積極的な交流等を通して、テキストで取り上げられた世界中の様々な話題や課題について興味関心を高めていき、それに付随して世界の人々とのコミュニケーション手段である英語習得の必要性を感じ始め、生涯を通して英語学習を続けてゆきたいという思いを抱くことができる。(学びに向かう力、人間性等)
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
英語コミュニケーションI	3	全日制・普通科・1学年	Power On English Communication I Revised (東京書籍)

CAN-DOリストに基づく年度末の学習到達目標	日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、 聞くこと(L)：必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 読むこと(R)：必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 話すこと〔やりとり〕(SI)：基本的な語句や文を用いて、情報や考え気持などを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。 話すこと〔発表〕(SP)：基本的な語句や文を用いて、情報や考え気持などを論理性に注意して話して伝える。 書くこと(W)：基本的な語句や文を用いて、情報や考え気持などを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。
-------------------------	--

時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元の目標	主な言語活動等	評価方法	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月	Pre-Lesson 1 - 5	4	中学校で学習した重要な基本的文法事項である「自動詞と他動詞」「品詞」「句・節」「文型」の概念を再確認し、英文解釈・英作文の基礎力を身に付ける。	・教科書・ワークシートを用いての問題演習と簡単な英作文活動	・小テスト・定期考査 ・授業での取り組み	
	Lesson 1 Japan's New Tourism	12	本文中の表現を利用して、50語程度の英語で、写真も使いながら、来日した外国人に紹介したい茨城県内の観光スポットについて説明する。	・教科書・ワークシートを用いての語句・英文の理解 ・本文の内容についての英語でのやりとり ・本文の内容についてのQ&A ・観光スポットについての簡易プレゼン ・観光スポットを紹介した簡単なパンフレットの作成	・小テスト・定期考査 ・授業での取り組み ・パンフレットの内容	「地理総合」の科目と連携し、日本の観光について調べる。
5月	Lesson 2 Light from Creatures	6	題材文から必要な情報を読み取り、書き手の意図や題材文の要点を捉える。	・音声を聞いて、題材の概要を理解 ・教科書・ワークシートを用いての語句・英文の理解 ・本文の内容についての英語でのやりとり	・小テスト・定期考査 ・授業での取り組み	「生物基礎」と連携し、生物が光る仕組みを知る。
6月	Lesson 3 One Small Goal at a Time	12	米国の大リーグで活躍する吉田選手の魅力や特徴について、教科書の内容や自分の考えをもとに、他の生徒と簡単な英語でやり取りができる。	・教科書やワークシートを用いて、語句や英文の意味を理解する。 ・本文の内容や吉田選手の魅力・特徴について、英語でやり取りをする。 ・題材文のメッセージに対する感想や自分の考えを英文にまとめ、その内容について英語で伝え合う。	・小テスト・定期考査 ・授業での取り組み	
7月	Lesson 4 Miniature Life	10	「見立て」という日本の伝統的な表現方法を理解するとともに、ミニチュア作品の意図や面白さを読み取り、自分で選んだミニチュア写真について考え発表できる。	・音声を聞いて、題材の概要を理解 ・教科書・ワークシートを用いての語句・英文の理解 ・本文の内容についての英語でのやりとり ・選んだミニチュア写真について英文にまとめ、グループ内で発表する	・小テスト・定期考査 ・授業での取り組み	
9月	Lesson 5 Banana Paper	12	バナナペーパープロジェクトのような、従来廃棄されていたものから新しい製品を作る企画を考え、それを発表する。	・教科書・ワークシートを用いての語句・英文の理解 ・本文の内容についての英語でのやり取り ・廃棄物再利用の企画書作成と簡易プレゼン	・小テスト・定期考査 ・授業での取り組み	「地理総合」と連携し、世界のNPO活動やSDGsを調べる。
10月	Lesson 6 Pattern in Human Behavior	6	題材文から必要な情報を読み取り、書き手の意図や題材文の要点を捉える。	・音声を聞いて、題材の概要を理解する。 ・教科書・ワークシートを用いての語句・英文の理解 ・本文の内容についてのQ&A	・小テスト・定期考査 ・授業での取り組み	
11月	Lesson 7 No Plastic or No Future	12	プラスチックごみの問題に関連し、我々の日常生活における、ごみの削減について考え、英語で意見交換ができる。	・教科書・ワークシートを用いての語句・英文の理解 ・本文の内容についての英語でのやり取り ・ごみ削減の対策を考え、英語で意見交換する。	・小テスト・定期考査 ・授業での取り組み	
12月	Lesson 8 Oh My Cod!	8	題材文から必要な情報を読み取り、書き手の意図や題材文の要点を捉える。	・音声を聞いて、題材の概要を理解する。 ・教科書・ワークシートを用いての語句・英文の理解 ・本文の内容についてのQ&A	・小テスト・定期考査 ・授業での取り組み	
1月	Lesson 9 Is E-sports a Real Sport?	8	題材文から必要な情報を読み取り、書き手の意図や題材文の要点を捉える。	・音声を聞いて、題材の概要を理解する。 ・教科書・ワークシートを用いての語句・英文の理解 ・本文の内容についての英語でのやり取り	・小テスト・定期考査 ・授業での取り組み	
2月	Lesson 10 Never Too Late to Learn and Relearn	8	題材文から必要な情報を読み取り、書き手の意図や題材文の要点を捉える。	・音声を聞いて、題材の概要を理解する。 ・教科書・ワークシートを用いての語句・英文の理解 ・本文の内容についての英語でのやり取り	・小テスト・定期考査 ・授業での取り組み	
3月	Optional Reading The Corgi and the Queen	6	題材文から必要な情報を読み取り、書き手の意図や題材文の要点を捉える。	・音声を聞いて、題材の概要を理解する。 ・教科書・ワークシートを用いての語句・英文の理解	・小テスト ・授業での取り組み	
指導時間数の計		104				

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○1学年修了時までには少なくともCEFR-Jの指標におけるA2-1レベル、2学年修了時までにはA2-2レベル、3学年前期終了までに、B2-1レベルの英語運用能力の知識と技能を身に着ける。(知識及び技能) ○英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、5技能を結び付けた統合的な言語活動の中で、与えられた英語の題材に対する的確な解釈をベースに、筆者や話し手の意図や思いを考察し、それに対する自己の考えとそう考えるに至った理由について、一定の支援を得ながら述べるができる。さらにその事柄について、他の生徒と意見を交換したり、ある課題については、その解決に向けて何が必要かなどについて、一定の支援を得ながら話し合うことができる。(思考力、判断力、表現力等) ○授業における協働学習やALTや海外からの留学生等との積極的な交流等を通して、テキストで取り上げられた世界中の様々な話題や課題について興味関心を高め、それに付随して世界の人々とのコミュニケーション手段である英語習得の必要性を感じ始め、生涯を通して英語学習を続けてゆきたいという思いを抱くことができる。(学びに向かう力、人間性等)
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
論理表現 I	3	全日制・普通科・1学年	be English logic and Expression I clear New Edition

CAN-DOリストに基づく年度末の学習到達目標	聞くこと(L)：基本的な語句や文を通過して、情報や相手の気持ちを聞き取ることができる。 読むこと(R)：基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを読み取ることができる。 話すこと【やりとり】(SI)：ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができる。 話すこと【発表】(SP)：スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うことができる。 書くこと(W)：基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができる。
-------------------------	--

時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元の目標	主な言語活動等	評価方法	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月	Grammar Book Introduction①～③ Lesson1 Meeting People	5	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の既習内容を復習する。 ・現在形、現在進行形について学んで理解する。 ・現在形、現在進行形を用いて文をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介の会話を聞いて理解し、質問に答える。 ・自分や身近な人に関する文章を書き、発表する。 ・「あいづち」表現を用いてペアで会話をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・活動の観察 ・ゴールデンウィークの計画に関する発表 	LHR
4～5月	Lesson 2 Holidays and Weekends	5	<ul style="list-style-type: none"> ・過去形・過去進行形について学んで理解する。 ・過去形・過去進行形を用いて文をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・休日や休暇中に関する質問をする。 ・休日や休暇中に関する質問に答える。 ・「聞き直す」表現を含む対話を理解し、展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・活動の観察 	LHR
5月	Lesson 3 Making Plans	5	<ul style="list-style-type: none"> ・未来を表す表現・未来進行形について学んで理解する。 ・未来を表す表現・未来進行形を用いて文をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予定に関する質問をする。 ・予定に関する質問に答える。 ・「具体的な情報をたずねる」表現を含む対話を理解し、展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・活動の観察 	
5～6月	Lesson 4 Experiences	6	<ul style="list-style-type: none"> ・現在完了形・現在完了進行形について学んで理解する。 ・現在完了形・現在完了進行形を用いて文をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経験に関する質問をする。 ・経験に関する質問に答える。 ・「話を切り出す」表現を含む対話を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・活動の観察 	
6月	Lesson 5 Study and Activities	4	<ul style="list-style-type: none"> ・過去完了形・過去完了進行形・未来完了形について学んで理解する。 ・過去完了形・過去完了進行形・未来完了形を用いて文をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習・課外活動に関する質問をする。 ・学習・課外活動に関する質問に答える。 ・「同意を求め」表現を含む対話を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・活動の観察 	
6～7月	Lesson 6 Food	5	<ul style="list-style-type: none"> ・能力・可能・推量・可能性を表す助動詞を学んで理解する。 ・能力・可能・推量・可能性を表す助動詞を用いて文をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物に関する質問に答える。 ・食べ物に関する質問に答える。 ・「好き・嫌いについて話す」表現を含む対話を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・活動の観察 	
7月	Lesson 7 School Life Lesson 8 Daily Life	6	<ul style="list-style-type: none"> ・義務・確信・推測・後悔を表す助動詞を学んで理解する。 ・義務・確信・推測・後悔を表す助動詞を用いて文をつくる。 ・依頼・許可・意志・推測を表す助動詞を学んで理解する。 ・依頼・許可・意志・推測を表す助動詞を用いて文をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活に関する質問に答える。 ・学校生活に関する質問に答える。 ・「理由をたずねる」表現を含む対話を展開する。 ・日常生活に関する質問をする。 ・日常生活に関する質問に答える。 ・「依頼を受け入れる・断る」表現を含む対話を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・活動の観察 	

9月	Lesson 9 Buildings and Transportation Lesson 10 The Future	6	<ul style="list-style-type: none"> ・受動態について学んで理解する。 ・受動態を用いて文をつくる。 ・不定詞の名詞用法について学んで理解する。 ・不定詞の名詞用法を用いて文をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建造物・交通に関する質問をする。 ・建造物・交通に関する質問に答える。 ・「話しかける」表現を含む対話を展開する。 ・AIが発達した未来と将来の夢に関する文章を書き、発表する。 ・「励ます」表現を含む対話を理解し、展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・活動の観察 ・AIが発達した未来と将来の夢に関する発表 	
9～ 10月	Lesson 11 Staying Healthy	5	<ul style="list-style-type: none"> ・不定詞の形容詞・副詞用法について学んで理解する。 ・不定詞の形容詞・副詞用法を用いて文をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康に関する質問をする。 ・健康に関する質問に答える。 ・「発言内容を確認する」表現を含む対話を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・活動の観察 	
10月	Lesson 12 Electrical Appliances Lesson 13 Hobbies and Interests	6	<ul style="list-style-type: none"> ・使役の意味で使う不定詞・原形不定詞・不定詞（進行形・受動態）について学んで理解する。 ・使役の意味で使う不定詞・原形不定詞・不定詞（進行形・受動態）を用いて文をつくる。 ・趣味・興味についての会話を聞いて理解し、質問に答える。 ・趣味・興味についての情報を読んで理解し、文章を書いたり、発表したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電化製品に関する質問をする。 ・電化製品に関する質問に答える。 ・「勧誘する」表現を含む対話を展開する。 ・趣味・興味についての質問をする。 ・趣味・興味についての質問に答える。 ・「相手と同じだと言う」表現を含む対話を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・活動の観察 	
10～ 11月	Lesson 14 The World of Nature	4	<ul style="list-style-type: none"> ・分詞の形容詞的用法について学んで理解する。 ・分詞の形容詞的用法を用いて文をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然に関する質問をする。 ・自然に関する質問に答える。 ・「感情を表す」表現を含む対話を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・活動の観察 	
11月	Lesson 15 Trouble and Difficulties	5	<ul style="list-style-type: none"> ・分詞構文を含む、さまざまな形の分詞を学んで理解する。 ・分詞構文を含む、さまざまな形の分詞を用いて文をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・トラブル・困難に関する質問をする。 ・トラブル・困難に関する質問に答える。 ・「同情・共感を表す」表現を含む対話を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・活動の観察 	
12月	Lesson 16 Inventions and Discovery	6	<ul style="list-style-type: none"> ・主格・目的格の関係代名詞について学んで理解する。 ・主格・目的格の関係代名詞を用いて文をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発明・発見に関する質問をする。 ・発明・発見に関する質問に答える。 ・「感想をたずねる」表現を含む対話を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・活動の観察 	
12～ 1月	Lesson 17 Career and Social Service	5	<ul style="list-style-type: none"> ・関係代名詞の非限定用法, whatについて学んで理解する。 ・関係代名詞の非限定用法, whatを用いて文をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職業・社会活動に関する質問をする。 ・職業・社会活動に関する質問に答える。 ・「さらに詳しい情報をたずねる」表現を含む対話を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・活動の観察 	
1月	Lesson 18 Events and Customs	6	<ul style="list-style-type: none"> ・関係副詞・複合関係詞について学んで理解する。 ・関係副詞・複合関係詞を用いて文をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事・慣習に関する質問をする。 ・行事・慣習に関する質問に答える。 ・「感想を述べる」表現を含む対話を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・活動の観察 	
1～2 月	Lesson 19 Living Environment	4	<ul style="list-style-type: none"> ・原級・比較級について学んで理解する。 ・原級・比較級を用いて文をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活環境に関する質問をする。 ・生活環境に関する質問に答える。 ・「存在を伝える」表現を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・活動の観察 	
2月	Lesson 20 Social Problems	5	<ul style="list-style-type: none"> ・最上級の表現について学んで理解する。 ・最上級の表現を用いて文をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会問題に関する質問をする。 ・社会問題に関する質問に答える。 ・「提案する」表現を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・活動の観察 	

2～3 月	Lesson 21 Making a Wish	7	<ul style="list-style-type: none"> ・仮定法過去・仮定法過去完了について 学んで理解する。 ・仮定法過去・仮定法過去完了を用いて 文をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・想像・願望に関する質問をする。 ・想像・願望に関する質問に答える。 ・「フォローアップ・クエスチョンをする」表現を 含む展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・活動の観察 	
指導時間数の計		70				

学校の教育目標	豊かな人間性を育み、自主自立の精神を養うとともに、「確かな知力・たくましい体力と精神力を備え、グローバルな視点で社会に貢献し、持続可能な社会の創り手となる人材」の育成を目指す ①自立した学習者を育む授業改善 ②進路意識の涵養と学力向上 ③安心・安全な学校の実現 ④人間関係力の向上
---------	--

教科の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。 ①人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。＜何を理解しているか、何ができるか＞（知識及び技能） ②家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。＜理解していること・できることをどう使うか＞（思考力、判断力、表現力等） ③様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会を参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。＜どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか＞（学びに向かう力、人間性等）
-------	--

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
家庭基礎	2	全日制・普通科・1学年	家庭基礎 自立・共生・創造(東京書籍)

科目の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。 ①人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 ②家庭や地域社会及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 ③様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。
-------	---

時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語 活動	各教科等横 断的な資 質・能力の 育成に関わ る他教科等 との関連
4 月	第1章 「生涯を見通す」	2	① 知識・技能 A(1) アイ(2) アイ ・人生を展望する B: 人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解している。 ・目標を持って生きる B: 自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 ・人生を展望する B: 生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・目標を持って生きる B: 生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・人生を展望する・目標を持って生きる B: 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生涯の生活設計について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	発表・ワークシート・ライフプランニングシート	【家族・家庭・人の一生】○各ライフステージの特徴と課題を理解する。	班活動	総合的な探究の時間
5 月	第2章 「人生をつくる」	6	① 知識・技能 ・人生をつくる B: 生涯発達の視点で青年期の課題を理解している。 ・家族家庭を見つめる B: 家族・家庭の機能と家族関係について理解を深めている。 ・これからの家庭生活と社会 B: 家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題について理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 ・家族家庭を見つめる B: 男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・これからの家庭生活と社会 B: 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 B: 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	定期考査・発表・ワークシート	○生涯発展の観点から今の自分を客観的に見つけ、職業選択を見通す。 ○固定的な性別役割分業意識を見直し、男女が相互的に協力して家庭を築き、家族関係をつくる必要性を学ぶ。 ○家族・家庭に関する基礎的な法律を学習し、現在の動きを知る。 ○家事労働・職業労働について知り、ワーク・ライフ・バランスについて知る。	班活動	
6 ・ 7 ・ 9 月	第3章 「子どもと共に育つ」	8	① 知識・技能 A(3) アイ ・命を育む B: 生涯発達の視点で青年期の課題を理解している。 ・子どもの育つ力を知る B: 乳幼児期の心身の発達と生活について理解している。 ・子どもと関わる B: 親の役割と保育について理解している。 ・子どもとの触れ合いから学ぶ B: 乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けている。 ・これからの保育環境 B: 子育て支援について理解している。 ② 思考・判断・表現 ・子どもと関わる B: 子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・これからの保育環境 B: 子供の健やかな発達のために地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 B: 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子供の生活と保育について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	定期考査・作品の点検及び提出作品 発表・ワークシート	【保育】 ○子どもの育つ力と発達段階を知る。 ○人生の初期における親・家族や周囲の人々の関わりを大切に学ぶ。 ○遊び、基本的な生活習慣の形成、食事、健康管理について学ぶ。 ○子どもを取りまく社会変化の現状について理解し考える。 ○児童福祉の理念を理解し、子育て支援の現状を学ぶ。	班活動 妊婦体験 保育人形抱っこ体験	
			① 知識・技能 D(ア)(イ) ・家庭科の学び方 B: ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実践方法について理解している。	ワークシート			

7月2週	家庭科の学び方 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	2	② 思考・判断・表現 ・家庭科の学び方 B: 自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の問題について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・家庭科の学び方 B: 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	宿題	夏期休業中の課題 ホームプロジェクト	課題 掲示発表		
9月	第7章 「衣生活をつくる」	12	① 知識・技能 B(2) アイ ・被服の役割を考える B: ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解している。 ・被服を入手する B: 被服材料について理解している。・被服構成について理解している。・被服衛生について理解している。 ・被服を管理する B: 被服の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 ・これからの衣生活 B: 健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができる。 ② 思考・判断・表現 ・被服の役割を考える・衣生活の文化と知恵 B: 被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・これからの衣生活 B: 被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 B: 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	定期考査・発表 表・実習・ワークシート	【衣生活】 ○被服のさまざまな役割を整理する。 ○被服材料の特徴を理解し、組成表示・取り扱い表示・サイズ表示などの意味が分かる。 ○汚れ落ちの仕組みを理解し、被服に適した洗濯や保管方法を知る。 ○被服製作を通じて、縫い代のしまつ(三つ折り縫いやまつり縫い)を学習する。 ○ミシンの取り扱いを学習する。 ○布を使った伝統的な生活の工夫を知り、現代に生かす。	被服実習		
9・10月	第4章 「超高齢期社会を生きる」	4	① 知識・技能 A(4) アイ ・超高齢・大衆長寿社会の到来 B: 高齢者を取り巻く社会環境について理解している。 ・高齢者の心身の特徴 B: 高齢期の心身の特徴について理解している。 ・これからの超高齢社会 B: 高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解している。・生活支援に関する基礎的な技能を身に付けている。 ② 思考・判断・表現 ・これからの超高齢社会 B: 高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 B: 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、高齢期の生活と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	実習・発表 表・ワークシート	【高齢者】 ○高齢社会の現状と課題を理解する。 ○高齢者に関する福祉について学び、高齢者を支える制度と課題を考える。 ○高齢期の心身の変化や特徴、個人差が大きいことを理解する。高齢者体験から高齢期の体を知る。 ○高齢者の尊厳と介護について理解する。 ○一生を通じた福祉や社会的支援の必要性を知る。 ○社会保障制度の理念と内容を学ぶ。 ○高齢者に関する福祉について学び、高齢者を支える制度と課題を考える。	班活動 高齢者体験 視覚障害体験		
10月	第5章 「共に生き、共に支える」	2	① 知識・技能 A(4) アイ ・私たちの生活と福祉・社会保障の考え方 B: 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。 ② 思考・判断・表現 ・共に生きる B: 家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 B: 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、共生社会と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	学習ノート	【共生】 ○多様な人々のニーズ、ノーマライゼーションの理念を理解し、ユニバーサルデザインを具体的に考える。		総合的な 探究の時間	
11・12・1月	第6章 「食生活をつくる」	18	① 知識・技能 B(1) アイ ・食生活の課題について考える B: ライフステージに応じた栄養の特徴について理解している。 ・食事と栄養と食品 B: 食品の栄養的特質について理解している。・食品の調理上の性質について理解している。 ・食生活の選択と安全 B: 健康や環境に配慮した食生活について理解している。・食品衛生について理解している。 ・生涯の健康を見通した食事計画 ライフステージに応じた栄養の特徴について理解している。 ・調理の基礎 ・おいしさの構成要素について理解している。・目的に応じた調理に必要な技能を身に付けている。 ② 思考・判断・表現 ・食事と栄養と食品 B: 食品の調理上の性質について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・食の選択と安全 B: 食生活の安全について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・食生活の文化と知恵 B: 食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・これからの食生活 B: 健康や環境に配慮した食生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 B: 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	定期考査・ワークシート・実習 授業・宿題	【食生活】 ○食品の選択や調理の際の安全に関する必要事項を学ぶ。 ○基本的な調理技術を学び、日常食を作れるようになる。 伝統的な日本料理・簡単な中華料理・西洋料理が作れるようになる。 ○青年期の食事の重要性を理解し、各ライフステージの栄養的特徴を知る。 ○日常の食生活を振り返る。 ○食事摂取量や食品群別摂取量の目安を知り、自分や家族に当てはめる。 ○食生活の変化や問題点を知り、環境や食料自給率の問題を考える。	班活動 調理実習	保健体育「 衛生・安全」 生物基礎「 身体の機能・仕組み」	
	第8章「住生活をつくる」		① 知識・技能 B(1) アイA(5) アイ A: 住居の機能や間取りの基礎知識を理解し、賃貸住宅や分譲住宅の間取りを読み取ることが出来る。住居を選ぶ際、室内外の環境に着目し、安全性・快適性等を考慮する必要性を学び、安全基準を満たした住宅や優れた住宅を選ぶことができる。バリアフリーの考え方を理解し実生活中で周囲に目を向けてそのよう行動すればよいか理解している。 B: 住居の機能や間取りの基礎知識を理解する。住居を選ぶ際、室内外の環境に着目し、安全性・快適性等を考慮する必要性を理解する。バリアフリーの考え方を理解する。 C: 住居の機能や間取りの基礎知識が分かる。住居を選ぶ際、室内外の環境に着目し、安全性・快適性等を考慮する必要性が分かる。バリアフリーの考え方が分かる。	定期考査・ワークシート	【住生活】 ○住居の機能や間取りの基礎知識を学ぶ。 ○ライフステージに合った住居を考える。 ○住居を選ぶ際、室内			

3 月	第11章 「これからの生活を創造 する」	2 ① 知識・技能 ・生活をデザインする B: 人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解している。 ・自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 ・生活をデザインする B: 生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・生活をデザインする B: 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生涯の生活設計について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	ライフプランニングシート	【人の一生】 ○人生の目標を達成し、自分らしい生活が実現できるよう、各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理について振り返りながら生活設計する。 ○持続可能な社会を構築していくために、何ができるか考える。	班活動 意見交換	総合的な 探究の時間
指導時間数の計		70				

教育課程上の名称		総合的な探究の時間					
学校において定める目標		探究の見方・考え方を働かせ、地域や社会の人、もの、ことに関わる総合的な学習を通して、自己の在り方生き方を考えながら、適切で論理的な課題の発見と解決ができるようになるために、以下の資質・能力を育成する。 (1) 地域や社会で起きていることがらを、因果関係や背景となっている事象を含めて俯瞰的に理解するとともに、批判精神を持って自分なりの課題を見いだすことができる。 (2) 課題についての情報を集め、分析して、解決に向けての見通しを持つことができる。 (3) 課題に対して、他者と協力し、多様な考えを取り入れながらよりよい解決像や納得解を求めることを通して、自己の在り方生き方を考えることができる。					
講座編成及び授業担当者		講座編成: ①探究スキルの習得講座については、クラスまたは学年で展開 ②生徒が設定した課題についてはクラスを超えて同じ課題ごとにグループを編成し担当者を充てることも考慮する 担当者 : 全職員					
設定時間		(火曜日、 6時限目)			単位数(1)		
時期月週日	探究課題	指導時数	探究の過程(時数)	学習活動(学習のねらい)	探究課題を通して育成を目指す資質・能力	主な言語活動	他教科等との関連
4月	オリエンテーション	2	年間の見通しを立てる(2)	<ul style="list-style-type: none"> 1年間を見通し、さらには3年後の進路を見据えながら、総合的な探究の時間の学習内容について知る。 自身の進路のイメージを持たせ、それを表現し、探究活動との連携を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を認識し、その論点を抽出する技術 自己の考えを整理し伝える能力 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートによる思考の整理 	<ul style="list-style-type: none"> 公民(自分自身、人間としてのあり方、生き方、自立心、自律性)
5~6月	文化祭とは	7	文化祭の企画、運営(7)	<ul style="list-style-type: none"> 6月に実施する文化祭(輝緑祭)に向け、以下の活動を行う。 輝緑祭の概要を知り、新入生としてどのように関わることができるか、考える。 輝緑祭において具体的に学級でどのような活動を行うか、過去の輝緑祭の企画内容なども調べながら情報収集し、級友と議論する。その際、地域に開かれた文化祭であること、輝緑祭終了後に地域探究に取り組むことを踏まえ、その観点からもどのようなことができるか検討する。 企画した内容について、どのようにすればそれが実現するのか、論点や課題を整理しながら、他者と協働しながら企画・運営する。 実施後はそれまでの活動をよく振り返り、次年度の輝緑祭の企画へ活かすことはもちろん、自身の探究活動にどのように活かすことができるか、考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの環境を客観的に認識する能力 他者と協働する能力 課題を認識し、その論点を抽出する技術 自己の考えを整理し伝える能力 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートによる思考の整理、振り返り グループによる意見交換、交流 	<ul style="list-style-type: none"> 公民(自分自身、人間としてのあり方、生き方、自立心、自律性) 持続可能な社会へのアプローチ(地公、理科、保体、家庭)
7月	ICTの活用について知る	3	タブレットの活用方法の学習(3)	<ul style="list-style-type: none"> 本格的なプロジェクト探究の開始に先立ち、ICT機器を活用した情報収集や分析、プレゼンテーションの方法について、他者と協働しながら学ぶ。 その際に、ICT危機を活用する際の留意点、リスクについてもあわせて学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者と協働する能力 課題を認識し、その論点を抽出する技術 ある課題についての論理的な思考力 	<ul style="list-style-type: none"> グループによる意見交換、交流 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な社会へのアプローチ(地公、理科、情報)
9月~2月	浅草街探索 異文化交流と発表	5	他者との対話 情報の整理・まとめ 発表・評価・振り返り(5)	<ul style="list-style-type: none"> 浅草街探索の実施に向けて、他者と協働しながら、外国人留学生を案内する計画を立てる。 計画に沿って探索し、留学生と英語を話しながら日本文化や異文化について学ぶ。 浅草街探索から学んだことをまとめ、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の考えを整理し伝える能力 他者と協働する能力 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートによる思考の整理、振り返り グループによる意見交換、交流、発表 	<ul style="list-style-type: none"> 公民(自分自身、人間としてのあり方、生き方、自立心、自律性) 持続可能な社会へのアプローチ(地公、理科、保体、家庭) 英語
	地域研究の手法 「ミライ探究」に向けて	15	課題の認識 課題の追及 情報の収集・整理・まとめ 発表・評価・振り返り(15)	<ul style="list-style-type: none"> 次年度の「ミライ探究」に向け、つくばみらい市役所職員による講演を聞き、つくばみらい市の現状と課題を把握する。 地域研究の手法を知り、今後の探究活動に向けての準備をする。 つくばみらい市の現状と課題から、限られた時間の中で興味のある分野の施策を調べ、プレゼン資料を作成・発表するほか、翌年度の探究活動につなげるため、さらなる疑問点等を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を認識し、その論点を抽出する技術 自己の考えを整理し伝える能力 他者と協働する能力 ある課題についての論理的な思考力 他者の視点、考え方を受け入れることができる資質 自己の活動を言語化する能力 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートによる思考の整理、振り返り 情報の収集、整理 グループによる意見交換、交流 プレゼン資料の作成、発表 	<ul style="list-style-type: none"> 公民(自分自身、人間としてのあり方、生き方、自立心、自律性) 持続可能な社会へのアプローチ(地公、理科、保体、家庭)
3月	地域探究の深化	3	他者との対話 課題の認識(3)	<ul style="list-style-type: none"> 今学年で実施した地域探究について、活動を振り返り、反省点や改善点、翌年度にさらに取り組むべきことなどを、他者との協働のなかで整理し、計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者の視点、考え方を受け入れることができる資質 自己の活動を言語化する能力 身の回りの環境を客観的に認識し、課題を設定する能力 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートによる思考の整理、振り返り グループによる意見交換、交流 	<ul style="list-style-type: none"> 公民(自分自身、人間としてのあり方、生き方、自立心、自律性) 持続可能な社会へのアプローチ(地公、理科、保体、家庭)
指導時間数の計		35					